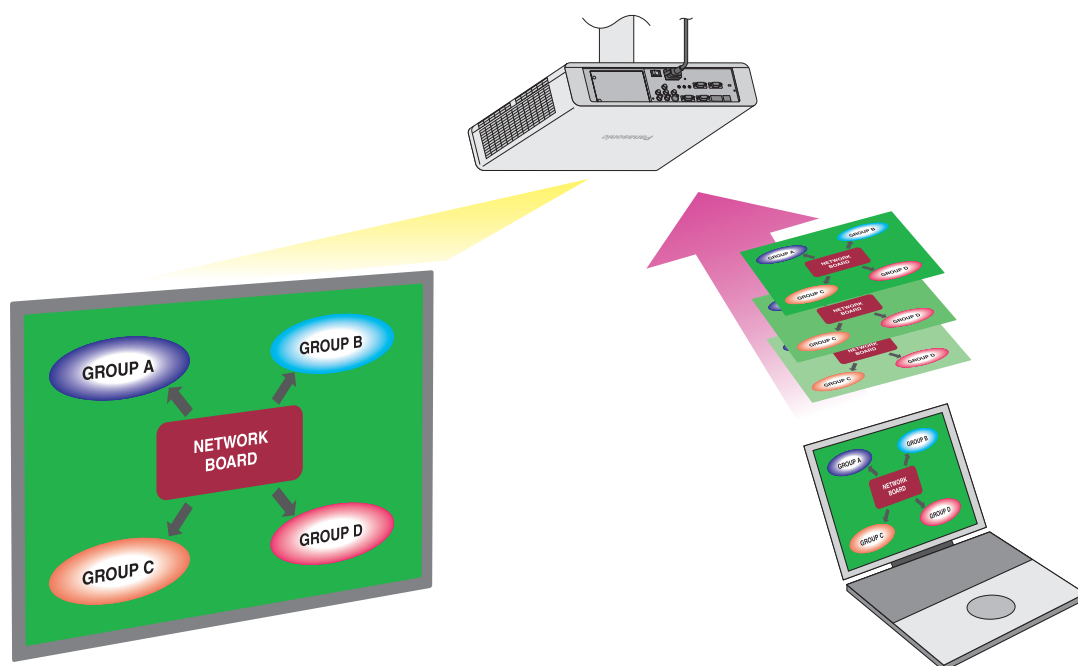


取扱説明書

ワイヤレスマネージャー ME6.4

Wireless Manager mobile edition 6.4

Windows



このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

はじめに

ソフトウェア使用許諾書	4
ご使用にあたってのお願いとお知らせ	5
ソフトウェアの使いかた	6

準備する

ご使用のコンピューターをご確認ください	9
接続に必要なコンピューター環境	9
必要なシステム構成	10
ソフトウェアをインストール / アンインストールする	11
ソフトウェアをインストールする	11
ソフトウェアをアンインストールする	12
ソフトウェアをインストールしないで使う	13
機材との接続方法	15
管理者権限がないアカウントの場合	15
機材を確認する	16

ソフトウェアを起動する

ソフトウェアを起動する	18
<かんたん接続>画面	19
<ネットワーク ID 確認>画面	19
<登録リスト> 画面	20
<プロジェクター検索> 画面	21

機材を選択する

登録済みの機材を選択する	23
[シンプル], [S-DIRECT], [S-MAP], [1], [2], [3], [4] の設定で使用する ...	24
[USER] の設定で使用する	26
[M-DIRECT] の設定で使用する	29
有線 LAN で接続して使用する	31
USB ディスプレイ機能を使用する	34
IP アドレス検索で使用する	36
機材にパスワードが設定されている場合	38
機材がコンテンツマネージャーを搭載している場合	38

映像を表示する

ランチャーを操作する	39
ランチャー	39
音量を調節する	40
ソフトウェアを終了する	40

機材の登録と編集

機材またはグループを登録する	41
< プロジェクター登録 > 画面	41
登録した名前を変更する	44
登録した機材またはグループを削除する	45
別の機材またはグループに変更する	46
登録リストをエクスポートする	47
登録リストをインポートする	48

さまざまな機能

エリア指定送信	49
オプションの設定	50
ライブモード	52
マルチライブモード	54
4 画面マルチスタイル	56
4 画面インデックススタイル	57
16 画面インデックススタイル	58
送信者名の設定	59
司会者モード	60
複数台ライブモード	61
ブラウザーリモコン	62
WEB 制御	63
コンテンツマネージャー	64
バージョン情報	64
メッセージ	65

その他

用語解説	67
困ったとき	69

ソフトウェア使用許諾書

本ソフトウェアについては、「ソフトウェア使用許諾書」の内容を承諾していただくことが、使用する条件になります。本ソフトウェアを使用した時点で、「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意していただいたものとみなします。

● 第1条 権利

お客様は、本ソフトウェアの使用権を得ることはできますが、著作権もしくは知的財産権がお客様に移転するものではありません。

● 第2条 第三者の使用

お客様は、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびそのコピーしたものを第三者に譲渡あるいは使用させることはできません。

● 第3条 コピーの制限

本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的のためだけに限定されます。

● 第4条 使用コンピューター

本ソフトウェアは、お客様が所有または管理する複数台のコンピューターにおいて使用することができます。

● 第5条 解析、変更または改造

本ソフトウェアの解析、変更または改造を行わないでください。

お客様の解析、変更または改造により、何らかの欠陥が生じたとしても、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社では一切の保証をいたしません。

また、解析、変更または改造の結果、万一お客様に損害が生じたとしてもパナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社および販売店、販売代理店等は責任を負いません。

● 第6条 アフターサービス

ご使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、「パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター」もしくは「パナソニック 業務用ディスプレイサポートセンター」までお問い合わせください。

お問い合わせの本ソフトウェアの不具合に関して、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社が知り得た内容の誤り（バグ）や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。

なお、本ソフトウェア仕様は予告なく変更することがあります。

● 第7条 免責

本ソフトウェアに関するパナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社の責任は、上記第6条のみとさせていただきます。

本ソフトウェアのご使用にあたり生じたお客様の損害および第三者からのお客様に対する請求については、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社および販売店、販売代理店等はその責任を負いません。

なお、パナソニック製ディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）の使用を伴わない本ソフトウェアの動作保証は一切行いません。

● 第8条 輸出管理

お客様は、本ソフトウェアを購入した国以外の国に持ち出される場合、その国および関係する各国の輸出管理に関連する法規を順守してください。

以下のことをあらかじめご了承ください。

- ディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）の使用または故障により生じた直接、間接の損害につきましては、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）によるデータの破損につきましては、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- イラストや画面表示は、実際と異なる場合があります。
- 本ソフトウェアの仕様は、予告なく変更されることがあります。

ご使用にあたってのお願いとお知らせ

● セキュリティに関するお願い

本ソフトウェアをご使用になる場合、以下のような被害を受ける場合が想定されます。

- 本ソフトウェアを経由したお客様のプライバシー情報の漏えい
- 悪意の第三者による本ソフトウェアの不正操作
- 悪意の第三者による本ソフトウェアの妨害や停止

ディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）本体とお使いのコンピューターに対して、セキュリティー対策を十分に行ってください。

- パスワードはできるだけ推測されにくいものにしてください。
- パスワードは定期的に変更してください。
- パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社および、その関係会社がお客様に対して直接パスワードを照会することはございません。直接問い合わせがありましても、パスワードを答えないでください。
- ファイアウォールなどの設定により、安全性の確保されたネットワークでご使用ください。
- ご使用のコンピューターのパスワードを設定し、ログオンできるユーザーを制限してください。

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティーに関するご注意

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してコンピューター等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
IDやパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報
メールの内容
等の通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANアダプターや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティーの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティーに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティーに関する設定が行われていない場合があります。お客様がセキュリティー問題発生の可能性を少なくするためには、無線LAN機器をご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティーに関するすべての設定を、各々の無線LAN機器の取扱説明書に従って行ってください。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティー設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

無線LANで使用する際のセキュリティー設定について、お客様ご自身で対処できない場合には、「パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター」もしくは「パナソニック 業務用ディスプレイサポートセンター」までお問い合わせください。

セキュリティーの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティーに関する設定を行い、本ソフトウェアを使用することをお勧めします。

Wireless Manager mobile edition 6.4（以下はWireless Manager ME6.4と表します）は下記のソフトウェアを使用します。

A portion of this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

- 本書内のイラストや画面は、実際と異なる場合があります。
- 本書およびソフトウェアにおいて、「機材」と表現している箇所はパナソニック製ディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）を対象としています。
- 本ソフトウェアの操作画面で「プロジェクター検索」など、プロジェクターを含む表現で機能を表示していますが、パナソニック製ディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）でご使用いただけます。

ソフトウェアの使いかた

本ソフトウェアを利用すると、コンピューターの画面を機材から手軽に映像を表示することができます。

お知らせ

- 使用する機材により、本ソフトウェアの制約事項が異なります。
最新の情報はWEBサイト (https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application) または (https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software)
- の「対応機種一覧表」をご覧ください。
また、プロジェクターやフラットパネルディスプレイの付属品に本ソフトウェアのCD-ROMがある場合は、CD-ROM内のアプリケーションランチャーにある「対応機種一覧表」をご覧ください。
- プロジェクターの場合、ご使用のプロジェクターの表示デバイスのアスペクト比によって、投写映像の表示解像度が異なります。
 - 4:3の場合：1 024 x 768 ドットの映像が、プロジェクターの表示ドット数で表示されます。
 - 4:3以外の場合：1 280 x 800 ドットの映像が、プロジェクターの表示ドット数で表示されます。
- フラットパネルディスプレイの場合、1 280 x 800 ドットの映像が、フラットパネルディスプレイの表示ドット数で表示されます。

映像を表示するまでの基本的なステップは、次のようになります。

■ 準備する

1 機材の電源を入れる

2 ネットワーク設定に関するメニューを選択する

プロジェクターの場合：

リモコンの<Panasonic APP> ボタンまたは<NETWORK/
USB> ボタン (またはプロジェクターの<INPUT SELECT> ボタン) を押す

フラットパネルディスプレイの場合：

リモコンの<INPUT> ボタンを押して「Panasonic
APPLICATION」を選択する

3 機材のネットワーク IDを確認する

🔗 「機材を確認する」(16 ページ)

4 本ソフトウェアをコンピューターにインストールする

🔗 「ソフトウェアをインストールする」(11 ページ)



ネットワーク ID の表示箇所
(プロジェクターの映像例)

■ ソフトウェアを起動する

5 本ソフトウェアを起動する

🔗 「ソフトウェアを起動する」(18 ページ)

複数台の機材を使用する場合、または IP アドレスで直接指定して接続する場合は、
(18 ページ) を参照し、[さらに検索する...] をクリックし、<プロジェクター
検索>画面 (21 ページ) から操作ください。



■ 機材を選択する

6 3で確認したネットワーク ID に一致する機材をクリックする

🔗 「<かんたん接続>画面」(19 ページ)



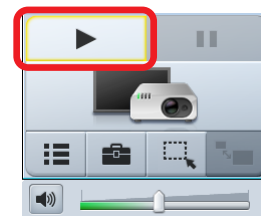
ソフトウェアの使いかた (つづき)

■ 映像を表示する

7 ランチャーの ▶ をクリックする

コンピューターの画面が機材から映像が表示されます。

🔗 「ランチャー」 (39 ページ)



お願い

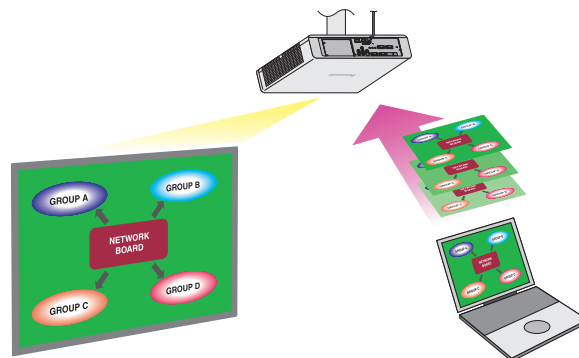
- 機材の無線 LAN 接続機能使用時は、2.4 GHz または 5 GHz 帯域の電波を使用します。
無線 LAN 接続をするうえでのお願い事項や、使用できる無線 LAN のチャンネルなどの情報は、プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

■ <ライブモード>

🔗 52 ページ

1 台の機材から 1 台のコンピューターの画面を表示することができます。

機種により、接続している人数に応じて自動で画面分割が行われます。



■ <マルチライブモード>

🔗 54 ページ

1 台の機材から複数台のコンピューターの画面を表示することができます。

この機能は、対応している機種のみご利用いただけます。詳しくは、対応機種一覧表をご覧ください。

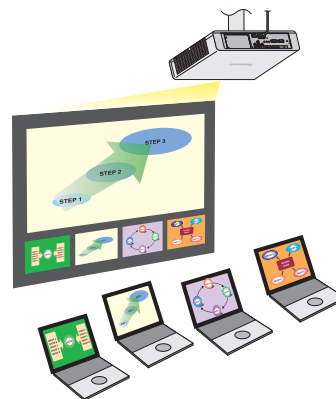
● 4画面マルチスタイル

複数台のコンピューターのプレゼンテーションに使用します。



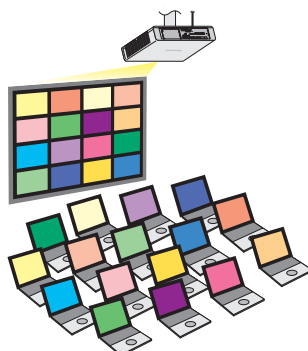
● 4画面インデックススタイル

4つのプレゼンテーションを表示しながら、その中の1つに注目を集めたい場合に、このスタイルが便利です。



● 16画面インデックススタイル

多くのプレゼンテーションを一覧表示したい場合に、このスタイルが便利です。



ソフトウェアの使いかた (つづき)

■ <司会者モード>

📖 60 ページ

司会者がリモコンやWEB制御画面を用いた操作で、機材に全画面表示する端末を選択することができます。

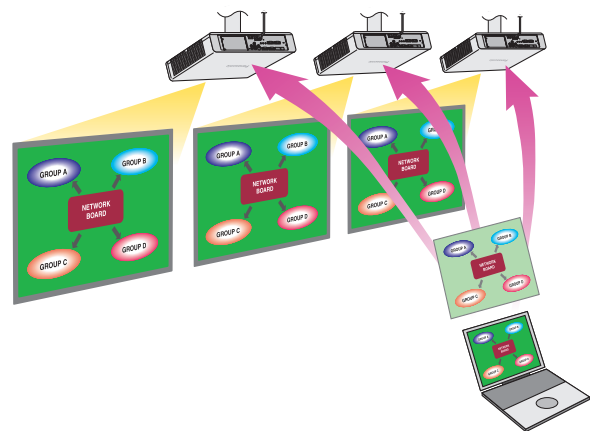
この機能は、対応している機種のみご利用いただけます。詳しくは、対応機種一覧表をご覧ください。



■ <複数台ライブモード>

📖 61 ページ

複数台の機材（最大8台）から1台のコンピューターの画面を表示することができます。



■ <ブラウザーリモコン>

📖 62 ページ

ブラウザーリモコンとは、WEB ブラウザー上に表示した各種ボタンを用いて、機材の操作を実現するものです。

ブラウザーリモコン対応機種：コンピューターのWEB ブラウザーを使って、機材のリモコンと同様の操作をすることができます。

ブラウザーリモコン非対応機種：簡易的なリモコン画面を使って、機材を操作することができます。

■ <WEB制御>

📖 63 ページ

コンピューターのWEB ブラウザーを使って、機材を制御することができます。

■ <コンテンツマネージャー>

📖 64 ページ

コンテンツマネージャーを搭載した機材に対して、本ソフトウェアから直接コンテンツマネージャーを呼び出すことができます。

ご使用のコンピューターをご確認ください

■ 接続に必要なコンピューター環境

- はじめに、お使いのコンピューターに有線 LAN、または無線 LAN 機能が装備されているかどうかご確認ください。
- 機材とコンピューターを接続する前に、必ず以下の設定をご確認ください。
- すべての無線 LAN アダプターやコンピューターに内蔵されている無線 LAN アダプターでの動作を保証するものではありません。

■ 無線 LAN の場合

チェック 1 無線 LAN の設定

- 無線 LAN アダプターが正しく認識されていますか。
- 無線 LAN アダプターが有効になっていますか。
- 事前に無線 LAN アダプターのドライバーをインストールしてください。
ドライバーのインストール方法は、無線 LAN アダプターの取扱説明書を参照してください。

チェック 2 ログオンするユーザーの設定

- 管理者権限でログオンできますか。

チェック 3 コンピューターの設定

- セキュリティー（ファイアウォール）ソフトや無線 LAN アダプターのユーティリティソフトがインストールされていると、機材と接続できない場合があります。
- ネットワークブリッジを設定していませんか。
 [「困ったとき」\(70 ページ\)](#)
- ファイアウォールのブロックを解除または停止していますか。
 [「困ったとき」\(71 ページ\)](#)

■ 有線 LAN の場合

チェック 1 有線 LAN ケーブルについて

- ケーブルが正しく接続されていますか。
- システム構成によりケーブル仕様は異なります。機材の設定とケーブルの仕様をご確認ください。

チェック 2 有線 LAN の設定

- 有線 LAN アダプターが正しく認識されていますか。
- 有線 LAN アダプターが有効になっていますか。
- 事前に有線 LAN アダプターのドライバーをインストールしてください。
ドライバーのインストール方法は、有線 LAN アダプターの取扱説明書を参照してください。

チェック 3 コンピューターの設定

- セキュリティー（ファイアウォール）ソフトがインストールされていると、機材と接続できない場合があります。
- ネットワークブリッジを設定していませんか。
 [「困ったとき」\(70 ページ\)](#)
- ファイアウォールのブロックを解除または停止していますか。
 [「困ったとき」\(71 ページ\)](#)

ご使用のコンピューターをご確認ください(つづき)

■ 必要なシステム構成

本ソフトウェアを使用するには、下記の条件を満たすコンピューターが必要です。

OS :	Microsoft Windows 8.1 Windows 8.1 32/64bit, Windows 8.1 Pro 32/64bit Microsoft Windows 10 Windows 10 Home 32/64bit, Windows 10 Pro 32/64bit 上記OSの日本語版、英語版、中国語版に対応します。
WEB ブラウザー :	WEB 制御機能、ブラウザーリモコン機能、司会者モード、コンテンツマネージャーを呼び出して使用する場合 : Internet Explorer 11.0
CPU :	Intel® Core™ 2 Duo 以上、もしくは互換のプロセッサ搭載 映像を表示する時は、Intel Core i5 以上推奨
メモリー :	1024 MB 以上
ハードディスク :	100 MB 以上の空き容量 (機材情報を保存するために、別途空き容量が必要です。)
LAN 環境 :	有線LANで接続する場合 : LAN 端子 (10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T) が必要 無線LANで接続する場合 : 無線LANアダプター (IEEE802.11b/g/n/a 準拠) が必要
モニター画面 :	High Color (16bit) 以上
デスクトップ領域 :	1024 ドット × 768 ドット 以上 2048 ドット × 1536 ドット 以下

準備する

📌 お知らせ 📌

- 上記のシステム環境以外で使用された場合、および自作コンピューターで使用された場合の動作保証は一切いたしませんので、あらかじめご了承ください。
- ワイヤレス WAN をご利用のコンピューターでは、一部の機能が使用できない場合があります。
- IEEE802.11n で接続する場合は、いずれも 11n に対応する無線 LAN アダプター、機材、およびアクセスポイントを使用してください。
- スイッチャブルグラフィックス (Switchable Graphics) 機能を持ったコンピューターで、グラフィック機能を切り換える場合は、映像の表示を停止してから行うようにしてください。
- プロジェクターの場合、ご使用のプロジェクターの表示デバイスのアスペクト比によって、投写映像の表示解像度が異なります。
 - 4:3 の場合 : 1 024 x 768 ドットの映像が、プロジェクターの表示ドット数で表示されます。
 - 4:3 以外の場合 : 1 280 x 800 ドットの映像が、プロジェクターの表示ドット数で表示されます。
- フラットパネルディスプレイの場合、1 280 x 800 ドットの映像が、フラットパネルディスプレイの表示ドット数で表示されます。

上記の条件を満たす、すべてのコンピューターについて動作を保証するものではありません。

ソフトウェアをインストール/アンインストールする

■ ソフトウェアをインストールする

📌 お知らせ 📌

- 「ワイヤレスマネージャー ME6.*」*¹ のインストールを行う際、すでに「ワイヤレスマネージャー ME6.*」*¹ がコンピューターにインストールされている場合、アンインストール*²されます。
- 本書のイラストや画面は実際と異なる場合があります。

1 インストーラーを起動し、画面の指示にしたがってインストールを行ってください。

＜機材の付属品の CD-ROM を用いてインストールする場合＞

プロジェクターの場合：

- 本ソフトウェアが収録されている CD-ROM を CD ドライブに挿入すると、自動的にアプリケーションランチャーが起動します。起動しないときは、CD-ROM 内の「Launcher.exe」をダブルクリックしてください。
- [ワイヤレスマネージャー ME6.*]*¹ をクリックします。
- [インストールする] と [インストールしないで使う] の選択画面が表示されます。

- [インストールする] をクリックします。

フラットパネルディスプレイの場合：

- 付属の CD-ROM を CD ドライブに挿入して、CD-ROM ドライブ内の「WirelessManager」→「Win」→「Setup.exe」または「setup.msi」をダブルクリックしてください。

📌 お知らせ 📌

- 自動再生の画面が表示された場合は、「Launcher.exe の実行」を選択してください。（プロジェクターの場合）
- 管理者権限のアカウントでインストールしてください。

＜WEB サイトからダウンロードしたファイルを用いてインストールする場合＞

- [ワイヤレスマネージャー ME6.*]*¹ をクリックし、案内に従って、コンピューターへのインストール用のファイルをダウンロードしてください。
- ダウンロード後のインストール方法については、WEB サイトの情報を参照ください。

2 インストールが完了すると、デスクトップ上にショートカットアイコンが作成されます。



📌 お知らせ 📌

- 本ソフトウェアの最新バージョンは、WEB サイト
(https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application) または
(https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software)) のサポート情報をご確認ください。
- *¹ * アスタリスクは、ソフトウェアのバージョンの一部が表示されます。
- *² 本ソフトウェアに登録されている機材の登録リストも削除されます。
登録リストを残したい場合には、エクスポート/インポートを行ってください。（47 ページ、48 ページ参照）

3 インストールが完了すると完了画面が表示されますので [完了] ボタンを押してください。

■ ソフトウェアをアンインストールする

次の操作でアンインストール*²を行ってください。

- **Windows 8.1 の場合**

キーボードの [Windows ロゴ] を押しながら [X] を押し、[コントロール パネル] → [プログラムのアンインストール] から [Wireless Manager mobile edition 6.*]*¹ を選択して [アンインストール] をクリックします。

- **Windows 10 の場合**

タスクバーの検索ボックスで「アプリと機能」と入力して選択し、[Wireless Manager mobile edition 6.*]*¹ を選択して [アンインストール] をクリックします。

お知らせ

- *¹ * アスタリスクは、ソフトウェアのバージョンの一部が表示されます。
- *² 本ソフトウェアに登録されている機材の登録リストも削除されます。
登録リストを残したい場合には、エクスポート/インポートを行ってください。(47 ページ、48 ページ参照)

ソフトウェアをインストールしないで使う

本ソフトウェアをインストールしなくても、本ソフトウェアを使用することができます。

また、USB メモリーなどのメディアに本ソフトウェアをコピーすることで、ソフトウェアをインストールすることのできないコンピュータでも本ソフトウェアを使うことができます。

お知らせ

- 本ソフトウェアをインストールしないで使う場合は、音声の出力ができません。

■ プロジェクターの付属品に本ソフトウェアのCD-ROMがある場合

1 本ソフトウェアが収録されているCD-ROMをCDドライブに挿入する

自動的にアプリケーションランチャーが起動します。

- 起動しないときは、CD-ROM内の「Launcher.exe」をダブルクリックしてください。
- 自動再生の画面が表示された場合は、「Launcher.exeの実行」を選択してください。

2 「ワイヤレスマネージャー ME6.*」*1 をクリックする

[インストールする]と[インストールしないで使う]の選択画面が表示されます。

お知らせ

- *1 *アスタリスクは、ソフトウェアのバージョンの一部が表示されます。

3 [インストールしないで使う]をクリックする

■ すぐに使う場合

4 [CD-ROMから起動]をクリックする

本ソフトウェアが起動します。



■ メディアにコピーして使う場合

4 [他メディアにコピーして起動]をクリックする



5 保存先を選び、[OK]をクリックする

CD-ROMのプログラムが選択した保存先にコピーされます。

6 アプリケーションランチャーを終了する

アプリケーションランチャーの最初の画面まで戻って[閉じる]をクリックしてください。
アプリケーションランチャーが終了します。

7 保存先の「WMStart.exe」をダブルクリックする

本ソフトウェアが起動します。

ソフトウェアをインストールしないで使う（つづき）

■ WEB サイトからダウンロードしたファイルを使用する場合

- [ワイヤレスマネージャー ME6.*]^{*1} をクリックし、案内に従って、コンピューターにインストールしないで使うファイルをダウンロードしてください。
- ダウンロード後のファイルの使用方法については、WEB サイトの情報を参照ください。

お知らせ

- 保存先にリムーバブルメディアを選択した場合は、リムーバブルメディアを機材に接続したいコンピューターへ挿入し、認識させてください。リムーバブルメディアによっては自動起動します。
- ^{*1} * アスタリスクは、ソフトウェアのバージョンの一部が表示されます。

機材との接続方法

機材とコンピュータの接続には、9通りの方法があります。

[シンプル]の設定で使用する

手軽に機材と様々な端末（コンピュータやタブレットやスマートフォンなどのモバイル機器）を無線で通信する場合に使用します。

 [24 ページ](#)

[S-DIRECT]の設定で使用する

手軽に機材とコンピュータを無線で通信する場合に使用します。

 [24 ページ](#)

[S-MAP]の設定で使用する

使用している機材が[S-DIRECT]に対応していない機種の場合に使用します。

 [24 ページ](#)

[1]～[4]の設定で使用する

使用している機材が[S-DIRECT]、[S-MAP]に対応していない機種の場合に使用します。

また、複数台の機材を同時に使う場合に使用します。

 [24 ページ](#)

[M-DIRECT]の設定で使用する

任意のネットワーク、セキュリティキーを指定して機材と通信する場合に使用します。

 [29 ページ](#)

[USER]の設定で使用する

既存のネットワークやアクセスポイントを利用して通信する場合に使用します。

また、複数台の機材を同時に使う場合に使用します。

 [26 ページ](#)

有線LANで接続して使用する

機材とコンピュータをLANケーブルで接続する場合に使用します。

また、複数台の機材を同時に使う場合に使用します。

 [31 ページ](#)

USBディスプレイ機能を使用する

機材とコンピュータをUSBケーブルで接続する場合に使用します。

 [34 ページ](#)

IPアドレス検索で使用する

IPアドレスによる検索機能を使って、機材と通信する場合に使用します。

 [36 ページ](#)

管理者権限がないアカウントの場合

管理者権限がないアカウントでコンピュータにログオンした場合は、無線LAN接続が[シンプル]、[S-DIRECT]、[S-MAP]、[1]、[2]、[3]、[4]に設定されている機材は使用できません。

- 無線LAN接続の設定は、機材によっては、ネットワーク番号と記載されています。

利用できる機材

-  「[USER]の設定で使用する」(26 ページ)
-  「[M-DIRECT]の設定で使用する」(29 ページ)
-  「有線LANで接続して使用する」(31 ページ)
-  「USBディスプレイ機能を使用する」(34 ページ)
-  「IPアドレス検索で使用する」(36 ページ)

お知らせ

- コンピューター側のネットワークの設定は、管理者権限のアカウントで行う必要があります。
- 本ソフトウェアのインストールには、管理者権限が必要です。
- 本ソフトウェアの起動後、USBディスプレイのドライバーをインストールするには、管理者権限が必要です。

機材を確認する

■ 機材の電源

機材の電源を入れてください。

■ 入力の設定

● プロジェクターの場合

リモコンの<Panasonic APP> ボタンまたは<NETWORK/USB> ボタン（またはプロジェクターの<INPUT SELECT> ボタン）を押して、入力を [Panasonic APPLICATION] または [NETWORK] に切り換えてください。プロジェクターの投写映像に待ち受け画面が表示されます。

● フラットパネルディスプレイの場合

リモコンの<INPUT> ボタンを押して [Panasonic APPLICATION] を選択します。フラットパネルディスプレイの画面に待ち受け画面が表示されます。

■ 機材の確認

機材の無線 LAN の接続方法、プロジェクター名またはディスプレイ名、ネットワーク ID を確認してください。なお、機材の機種によって、表示箇所は異なります。

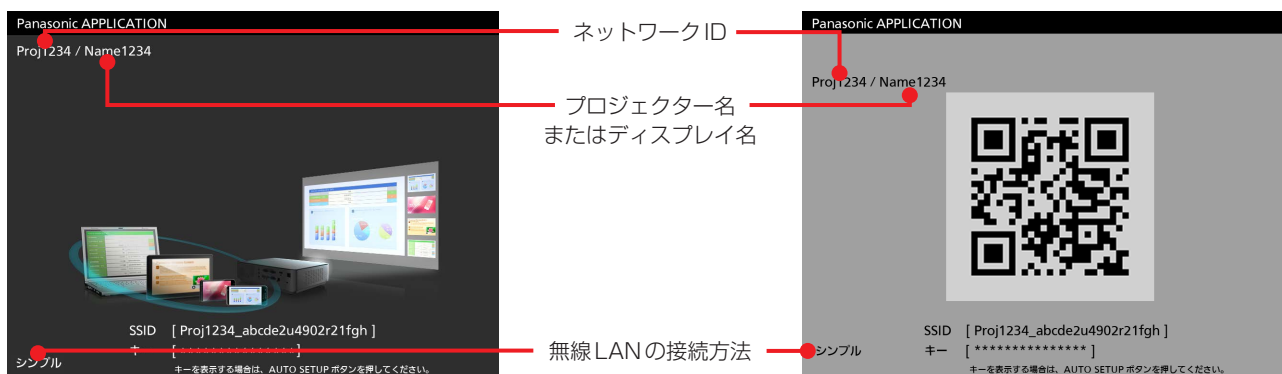
● 待ち受け画面が表示される機材（プロジェクターの映像例）

待ち受け画面が表示される機材でも、既に他のユーザーが映像を表示している場合や、マルチライブ（54 ページ）のモードが 4 画面インデックス / 16 画面インデックスの場合や、司会者モード（60 ページ）が「オン」の場合は、待ち受け画面が表示されません。

プロジェクターの場合、AUTOSSETUP ボタンを押すことで、ネットワーク ID を確認することができます。

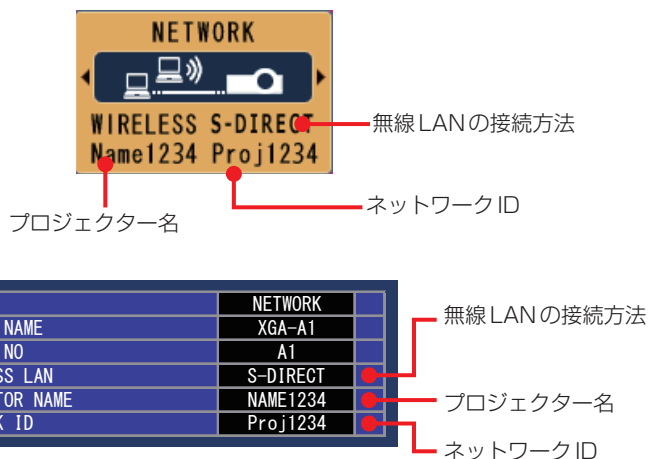
フラットパネルディスプレイの場合、[ネットワーク設定] で [ネットワークステータス] を選んで、ネットワーク ID を確認することができます。

・ 待ち受け画面の表示例



● 待ち受け画面が表示されない機材（プロジェクターの映像例）

・ 入力ガイドの表示例



機材を確認する(つづき)



- 上記画面が表示されないプロジェクターの場合は、機材の<メニュー / MENU> ボタンを押して、表示されたメニューから[表示オプション] → [入力ガイド]を「オン」、または「詳細表示」にしてください。

■ ネットワークステータスの確認

機材のメニューで、ネットワークの設定情報を確認することができます。

- プロジェクターの<メニュー> ボタンを押して、表示されたメニューから[ネットワーク] → [ネットワークステータス]で詳細なネットワークの設定情報を確認することができます。
- フラットパネルディスプレイのリモコンの<SETUP> ボタンを押して、表示されたメニューから[ネットワーク設定] → [ネットワークステータス]で詳細なネットワークの設定情報を確認することができます。
- 手軽にコンピューターと無線 LAN で接続する場合は、[シンプル]、または[S-DIRECT]の設定で使用するのが便利です。

🔗 「[シンプル]、[S-DIRECT]、[S-MAP]、[1]、[2]、[3]、[4]の設定で使用する」(24 ページ)

🔗 お知らせ 🔗

- 使用するプロジェクターやフラットパネルディスプレイにより、無線 LAN のネットワークの設定方法が異なります。
🔗 プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書【無線 LAN の設定】をご覧ください。

ソフトウェアを起動する

インストールした本ソフトウェアを起動するときは、

デスクトップの  **をダブルクリックする**

本ソフトウェアを起動すると＜かんたん接続＞画面とランチャーが表示されます。

● Windows 8.1 の場合

キーボードの [Windows ロゴ] を押しながら [Q] を押し、開いたアプリの検索チャームで「Wireless Manager mobile edition…」を検索して、[ Wireless Manager mobile edition 6.*]^{*1} を選択することでも本ソフトウェアを起動することができます。

● Windows 10 の場合

[ スタート] → [すべてのアプリ] → [ Panasonic] → [ Wireless Manager mobile edition 6.*]^{*1} を選択することでも本ソフトウェアを起動することができます。

機材の使用方法や無線 LAN の接続方法に合わせ、検索画面を切り換えて操作してください。

■ ＜かんたん接続＞画面を使用する

- [シンプル]、[S-DIRECT]、[S-MAP]、[USER]、[M-DIRECT] の設定で、1 台の機材を使用する場合

■ 操作方法

＜かんたん接続＞画面 (19 ページ) から操作ください。



[USER]、[M-DIRECT] の設定で使用する場合は、機材の無線 LAN 設定に合わせて、ご使用のコンピューターのネットワークを設定しておく必要があります (26-30 ページ)

■ ＜プロジェクター検索＞画面を使用する

- [シンプル]、[S-DIRECT]、[S-MAP]、[USER]、[1] ~ [4]、[M-DIRECT] の設定で、1 台の機材を使用する場合
- [USER]、[1] ~ [4] の設定で、複数台の機材を使用する場合
- [USER]、[M-DIRECT] の設定で、IP 検索の場合

■ 操作方法

＜かんたん接続＞画面の [さらに検索する...] をクリックし、＜プロジェクター検索＞画面 (21 ページ) から操作ください。



📎 お知らせ 📎

- 本ソフトウェアを起動したときにファイアウォールを検出した場合は、メッセージが表示されます。
📎 「メッセージ」 (65 ページ)
- オプション設定で「起動時にかんたん接続画面を表示する」にチェックを入れておくと、ソフトウェア起動時に＜かんたん接続＞画面が表示されます。
📎 「オプションの設定」 (50 ページ)
- オプション設定で「起動時にかんたん接続画面を表示する」のチェックを外し、機材を 1 台も登録していない場合は、ソフトウェア起動時に＜プロジェクターを登録します＞画面が表示されます。
📎 「オプションの設定」 (50 ページ)
- *1 * アスタリスクは、ソフトウェアのバージョンの一部が表示されます。

ソフトウェアを起動する(つづき)

■ <かんたん接続>画面

ソフトウェア起動後に表示される画面で、コンピューターの画面を素早く簡単に機材から映像を表示することができます。また、機材に接続・映像を表示するためのショートカットファイルを作成することもできます。



① ネットワークID

機材を識別する Proj + 4桁の数字からなるIDです。

🔗「機材を確認する」(16 ページ)

② 更新ボタン

ボタンをクリックすることで、機材の検索結果を最新の状態に更新します。

③ ショートカットファイル作成ボタン

ボタンをクリックすると、それぞれの機材に対応したショートカットファイルを指定したフォルダに作成することができます。ショートカットの種類としては、以下の2種類が作成できます。

- 接続用のショートカットファイルを作成する



このアイコンをダブルクリックすることで、作成時に選択した機材への接続を自動で行います。

- 表示用のショートカットアイコンを作成する

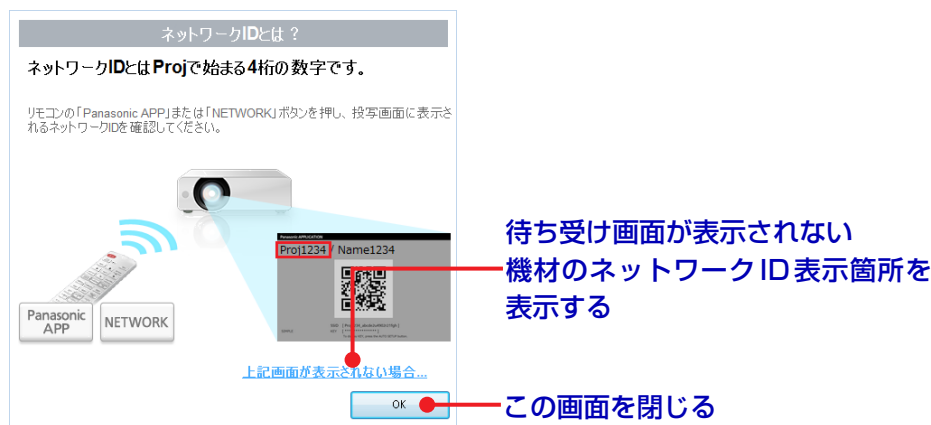


このアイコンをダブルクリックすることで、作成時に選択した機材からの映像の表示を自動で行います。

■ <ネットワークID確認>画面

ネットワークIDの確認方法を記載した画面です。

<ネットワークID確認>画面を開くには、<かんたん接続>画面の[ネットワークIDとは?]をクリックします。



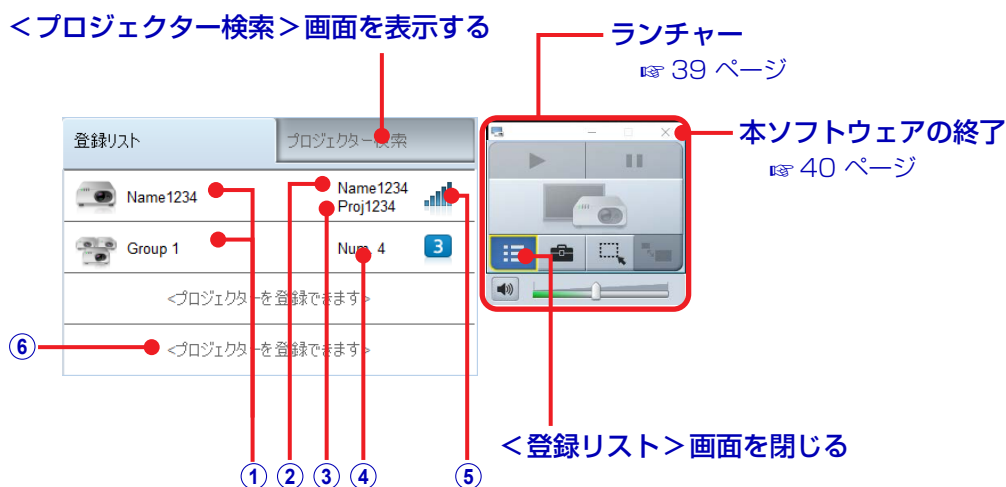
ソフトウェアを起動する(つづき)

■ <登録リスト> 画面

機材を登録することで、コンピューターの画面を素早く機材から映像を表示することができます。

機材、および複数の機材で構成されるグループを合計 4 つまで登録することができます。

☞「機材またはグループを登録する」(41 ページ)



① 登録名

本ソフトウェアに登録した機材、またはグループの名前です。

☞「登録した名前を変更する」(44 ページ)

② プロジェクター名またはディスプレイ名

機材に設定されている名前です。

ただし、無線 LAN 設定が[シンプル]の場合は、機材に設定されている名前ではなく、“SIMPLE”と表示されます。

☞「機材を確認する」(16 ページ)

③ ネットワーク ID

機材を識別する Proj + 4桁の数字からなる ID です。

☞「機材を確認する」(16 ページ)

④ 登録台数

グループを構成している機材の台数です。

グループ登録の場合に、プロジェクター名またはディスプレイ名とネットワーク ID の代わりに表示されます。

⑤ ネットワーク

機材を登録したときの無線 LAN の接続方法を表します。



[シンプル]、[S-DIRECT]、または [S-MAP]

電波の強度がレベルで表示されます。

--

登録時は、[シンプル]、[S-DIRECT]、または [S-MAP] だったが見つからない

1 ~ 4

[1] ~ [4]

U

[有線 LAN]、[M-DIRECT]、[USER]、[IP]

⑥ 未登録エリア

機材の登録に空きがあると、[<プロジェクターを登録できます>]と表示されます。

このエリアをクリックすると、<プロジェクター登録>画面に切り換わります。

📌 お知らせ

- 機材が登録されていない場合は、<登録リスト>画面に機材/グループが表示されません。
- 「登録台数」の部分にマウスカーソルを置くと、登録されている台数分の「プロジェクター名またはディスプレイ名/ネットワーク ID」がポップアップ表示されます。

ソフトウェアを起動する(つづき)

■ <プロジェクター検索> 画面

<登録リスト> 画面を表示する

選択されている機材



⑦ 更新ボタン

ボタンをクリックすることで、機材の検索結果を最新の状態に更新します。

⑧ [使用台数] ボタン

同時に使用する機材の台数を **1台** ボタン、または **複数台** ボタンをクリックして切り換えます。
複数台 が選択されているときは、[検索切換] ボタンの **S** をクリックすることができません。

⑨ [検索切換] ボタン

各ボタンをクリックすることで、それぞれに該当する無線LANの接続方法の機材を検索して表示します。
 使用する機材の無線LANの接続方法を確認し、対応するボタンをクリックして切り換えてください。

ボタン	検索する機材
S [シンプル] [S-DIRECT] [S-MAP]	無線LAN接続が[シンプル]、[S-DIRECT]、または[S-MAP]に設定されている機材を検索します。 コンピューターのネットワークを設定しなくても、すぐに機材を使いたいときに便利です。 複数台の機材で、同時に映像を表示することはできません。 ⓘ 「[シンプル]、[S-DIRECT]、[S-MAP]、[1]、[2]、[3]、[4]の設定で使用する」(24 ページ)
U [USER] [M-DIRECT] [有線LAN]	無線LAN接続が[USER]、[M-DIRECT]に設定されている機材、または有線LANで接続した機材を検索します。 ⓘ 「[USER]の設定で使用する」(26 ページ) ⓘ 「[M-DIRECT]の設定で使用する」(29 ページ) ⓘ 「有線LANで接続して使用する」(31 ページ) ⓘ 「USBディスプレイ機能を使用する」(34 ページ)
1 ~ 4	無線LAN接続が[1] ~ [4]に設定されている機材を検索します。 ⓘ 「[シンプル]、[S-DIRECT]、[S-MAP]、[1]、[2]、[3]、[4]の設定で使用する」(24 ページ)
IP	IPアドレスを指定して機材を検索します。 ⓘ 「IPアドレス検索で使用する」(36 ページ)

ソフトウェアを起動する(つづき)

⑩[使用する]ボタン

ボタンをクリックすることで、選択した機材から映像を表示できる状態になります。

お知らせ

- 管理者権限がないアカウントでコンピューターにログオンした場合は、無線LAN接続が[シンプル]、[S-DIRECT]、[S-MAP]、[1]、[2]、[3]、[4]に設定されている機材は使用できません。
 - 無線LAN接続の[1]は、WEP（無線通信の暗号化）が設定されていません。
無線LAN接続の[2]～[4]は、WEP（無線通信の暗号化）が設定されていますので、セキュリティを重視される場合は、機材の無線LAN接続を[2]～[4]に設定してください。
 - 無線LAN接続が[1]、および[USER]の機材で[暗号化]を[無し]に設定した場合でも、画像／音声データは、あらかじめ全無線LANの接続方法においてAES暗号化処理が施されていますので、重要なデータは保護されます。
 - 機材を選択するためには、機材に設定されているものと同じ無線LAN接続を[検索切替]ボタンから選択する必要があります。機材の無線LANの接続方法を確認するには、機材のネットワークメニュー、もしくは待ち受け画面を確認してください。
-  「機材を確認する」(16 ページ)
- プロジェクターの場合、ご使用のプロジェクターの表示デバイスのアスペクト比によって、投写映像の表示解像度が異なります。
 - 4:3の場合：1 024 x 768 ドットの映像が、プロジェクターの表示ドット数で表示されます。
 - 4:3以外の場合：1 280 x 800 ドットの映像が、プロジェクターの表示ドット数で表示されます。
 - フラットパネルディスプレイの場合、1 280 x 800 ドットの映像が、フラットパネルディスプレイの表示ドット数で表示されます。

登録済みの機材を選択する

事前に登録しておいた機材から使用する機材を選択して、コンピューターの画面を表示します。

複数の機材で構成されるグループを選択すると、コンピューターの画面を複数台の機材で同時に表示することができます。

- あらかじめ、機材の電源を入れて、無線 LAN の接続方法、プロジェクター名またはディスプレイ名およびネットワーク ID を確認しておきます。

🔗 「機材を確認する」(16 ページ)

🔗 「機材またはグループを登録する」(41 ページ)

1 本ソフトウェア を起動して<登録リスト>画面を表示する

🔗 「ソフトウェアを起動する」(18 ページ)



2 機材に表示されているプロジェクター名またはディスプレイ名とネットワーク ID に一致する機材をクリックする



ネットワーク ID の表示箇所
(プロジェクターの映像例)



<登録リスト> 画面の表示例
(本ソフトウェアの画面)

機材を選択する

📌 お知らせ 📌

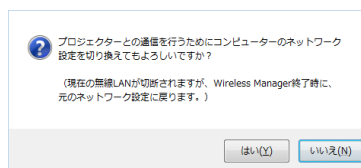
- 使用する機材により、プロジェクター名またはディスプレイ名とネットワーク ID の表示箇所は異なる場合があります。
🔗 「機材を確認する」(16 ページ)
- 無線 LAN 設定が [シンプル] の場合は、登録リスト画面の表示はプロジェクター名またはディスプレイ名ではなく、SIMPLE と表示されます。
- 「登録台数」の部分にマウスカーソルを置くと、登録されている台数分の「プロジェクター名またはディスプレイ名 / ネットワーク ID」がポップアップ表示されます。

機材が映像を表示できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。

🔗 「ランチャー」(39 ページ)



- ネットワークの設定変更を確認する画面が表示されたときは、[はい] をクリックしてください。



[シンプル], [S-DIRECT], [S-MAP], [1], [2], [3], [4] の設定で使用する

無線 LAN の接続方法が [シンプル], [S-DIRECT], [S-MAP], [1], [2], [3], [4] に設定されている機材を選択して、コンピュータの画面を表示します。

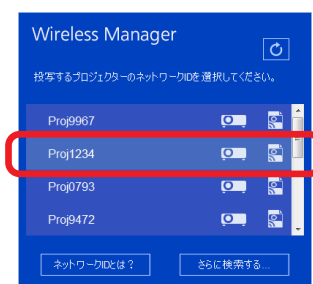
- 手軽にコンピュータと無線 LAN で接続する場合は、[シンプル]、[S-DIRECT]、または [S-MAP] の設定で使用するの
が便利です。＜かんたん接続＞画面から機材を選択することができます。
- あらかじめ、機材の電源を入れて、無線 LAN の接続方法、プロジェクター名またはディスプレイ名およびネットワーク
ID を確認しておきます。

🔗「機材を確認する」(16 ページ)

1 本ソフトウェア を起動して＜かんたん接続＞画面を表示する

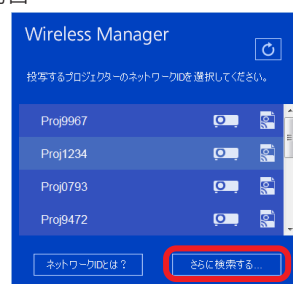
🔗「ソフトウェアを起動する」(18 ページ)

＜かんたん接続＞画面を用いて、[シンプル]、
[S-DIRECT]、[S-MAP] の設定で使用する場合



リストから機材に表示されているネットワーク ID に一
致する機材をクリックし選択します。
機材が映像を表示できる状態になると、ランチャーの操
作が有効になります。
操作手順 2 以降は、必要ありません。

＜プロジェクター検索＞画面を用いて、[シンプル]、
[S-DIRECT]、[S-MAP]、[1]、[2]、[3]、[4] の設定
で使用する場合



[さらに検索する...] をクリックし、＜プロジェクター検
索＞画面を表示してください。



以降、操作手順 2 にお進みください。

機材を選択する

2 使用する機材の台数に応じて [使用台数] ボタンの **1台**、または **複数台** をクリックし、機材に表 示されている無線 LAN の接続方法に該当する [検索切換] ボタンをクリックする

無線 LAN の接続方法が [シンプル]、[S-DIRECT]、または [S-MAP] のときは、**S** をクリックし、無線 LAN の接
続方法が [1]、[2]、[3]、[4] のときは、同じ番号のボタンをクリックします。

- ＜プロジェクター検索＞画面を表示したときは、**1台** が選択されています。
- **複数台** を選択した場合は、**S** を選択することができません。



ネットワーク ID の表示箇所
(プロジェクターの映像例)



＜プロジェクター検索＞画面の表示例
(本ソフトウェアの画面)

3 機材に表示されているプロジェクター名またはディスプレイ名とネットワーク ID に一致する機材をクリックする

複数台の機材を同時に使用する場合は、使用する機材をすべて選んでください。



ネットワーク ID の表示箇所
(プロジェクターの映像例)



<プロジェクト検索>画面の表示例
(本ソフトウェアの画面)

4 [使用する] をクリックする

機材が映像を表示できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。

🔗 [「ランチャー」\(39 ページ\)](#)

📌お知らせ📌

- ネットワークの設定変更を確認する画面が表示されたときは、[はい]をクリックしてください。
🔗 [23 ページ](#)
- 使用する機材により、プロジェクター名またはディスプレイ名とネットワーク ID の表示箇所は異なる場合があります。
🔗 [「機材を確認する」\(16 ページ\)](#)
- 複数台の機材を選択して使用する場合は、[使用台数] ボタンの **複数台** を選択してください。
最大で 8 台の機材を同時に使用することができます。
🔗 [21 ページ](#)

[USER] の設定で使用する

無線 LAN の接続方法が [USER]、[USER1]、[USER2]、[USER3] に設定されている機材を選択して、コンピューターの画面を表示します。

- あらかじめ、機材の電源を入れて、プロジェクター名またはディスプレイ名とネットワーク ID を確認しておきます。

🔗 [「機材を確認する」\(16 ページ\)](#)

■ 機材の設定

1 機材のネットワーク設定をする

- ① ネットワークメニューを選択する

プロジェクターの場合：

プロジェクターのメニュー画面から [ネットワーク] → [無線 LAN] で [USER] (または [USER1]、[USER2]、[USER3]) を選択する

フラットパネルディスプレイの場合：

リモコンの [SET UP] ボタンを押し、[ネットワーク設定] → [無線 LAN] で [USER1] (または [USER2]、[USER3]) を選択する

- ② ネットワークの設定をする

🔗 [プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書](#)

[USER] 設定：

SSID 検索画面が表示されるので、接続したい SSID を選択してください。

鍵アイコンが表示されている SSID を選択した場合は、認証 / 暗号化の設定が必要です。

[USER1]、[USER2]、[USER3] 設定：

ネットワーク情報を入力する画面が表示されますので、接続したい SSID の情報を入力してください。

AD HOC 接続の場合 (「用語解説」 67 ページ) (工場出荷時の状態での接続になります)	
SSID	*1
DHCP	オフ
IP アドレス	192.168.11.100
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.11.1
モード	AD HOC
認証	オープン
暗号化	無し
チャンネル	11

アクセスポイント経由 (DHCP) の場合 (「用語解説」 67 ページ)	
SSID	接続するアクセスポイント名を入力する
DHCP	オン
モード	INFRASTRUCTURE
認証	接続するアクセスポイントに合わせて入力する
暗号化	
チャンネル	

*1 プロジェクターの場合、「Panasonic Projector」

フラットパネルディスプレイの場合、「Panasonic Display」

- 上記以外の内容にするときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。

■ コンピューターの設定

2 機材の設定に合わせて、コンピューターのネットワークを設定する

機材が工場出荷時の状態の場合は、コンピューターの DHCP 機能を「オン」にして使用してください。

- コンピューターのネットワークを設定するときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。

[USER] の設定で使用する (つづき)

3 機材に設定されているネットワークに接続する

タスクトレイ (Windows 画面の右下) の  をクリックして、機材に設定されている SSID と同じ名前を選択してください。

お知らせ

- ネットワークが見つからない場合は、お使いの無線 LAN アダプターの取扱説明書をご確認ください。
- 機材の設定を正しく行っても、アクセスポイント経由で無線 LAN 接続ができない場合は、お使いのアクセスポイントのメーカーにお問い合わせください。

■ 機材の選択

4 本ソフトウェア を起動して＜かんたん接続＞画面を表示する

 「ソフトウェアを起動する」(18 ページ)

＜かんたん接続＞画面を用いて、1 台の機材を使用する場合



リストから機材に表示されているネットワーク ID に一致する機材をクリックし選択します。
機材が映像を表示できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。
操作手順5以降は、必要ありません。

＜プロジェクト検索＞画面を用いて、1 台もしくは複数台の機材を使用する場合



[さらに検索する...] をクリックし、
＜プロジェクト検索＞画面を表示してください。



以降、操作手順5にお進みください。

5 使用する機材の台数に応じて [使用台数] ボタンの **1台**、または **複数台** をクリックし、[検索切替] ボタンの **U** をクリックする

[USER] の設定で使用する (つづき)

6 機材に表示されているプロジェクター名またはディスプレイ名とネットワーク ID に一致する機材をクリックする

複数台の機材を同時に使用する場合は、使用する機材をすべて選んでください。



ネットワーク ID の表示箇所
(プロジェクターの映像例)



<プロジェクター検索> 画面の表示例
(本ソフトウェアの画面)

- ネットワークの設定を正しく行っても機材が見つからない場合は、「IP アドレス検索で使用する」(36 ページ) をご利用ください。

7 [使用する] をクリックする

機材が映像を表示できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。

🔗 「ランチャー」(39 ページ)

📌 お知らせ 📌

- コンピューターのネットワークを設定するときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。
- 使用する機材により、プロジェクター名またはディスプレイ名とネットワーク ID の表示箇所は異なる場合があります。
🔗 「機材を確認する」(16 ページ)
- 複数台の機材を選択して使用する場合は、[使用台数] ボタンの **複数台** を選択してください。
最大で 8 台の機材を同時に使用することができます。

🔗 21 ページ

[M-DIRECT] の設定で使用する

無線 LAN の接続方法が [M-DIRECT] に設定されている機材を選択して、コンピューターの画面を表示します。
機材が簡易アクセスポイントになるため、別途アクセスポイントを設置していなくても、機材とコンピューターをインフラストラクチャーモードで接続することができます。

🔗 [「インフラストラクチャーモード」 \(67 ページ\)](#)

- あらかじめ、機材の電源を入れて、プロジェクター名またはディスプレイ名とネットワーク ID を確認しておきます。

🔗 [「機材を確認する」 \(16 ページ\)](#)

■ 機材の設定

1 機材のネットワーク設定をする

- ① ネットワークメニューを選択する

プロジェクターの場合：

メニュー画面から [ネットワーク] → [無線 LAN] で [M-DIRECT] を選択する

フラットパネルディスプレイの場合：

リモコンの [SET UP] ボタンを押し、[ネットワーク設定] → [無線 LAN] で [M-DIRECT] を選択する

- ② ネットワークの設定をする

🔗 [プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書](#)

工場出荷時の設定内容	
SSID	M-DIRECT + ネットワーク ID の下 4 桁
IP アドレス	192.168.12.100
サブネットマスク	255.255.255.0
チャンネル	1
キー	M-DIRECT + ネットワーク ID の下 4 桁 例：“M-DIRECT1234”

お願い

- 上記以外の内容にするときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。
- 工場出荷時の状態のままの [キー] は、第三者による情報の漏えいの危険があります。必ず、工場出荷時の値から変更してください。

■ コンピューターの設定

2 機材の設定に合わせて、コンピューターのネットワークを設定する

機材が工場出荷時の状態の場合は、コンピューターの DHCP 機能を「オン」にして使用してください。

- コンピューターのネットワークを設定するときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。

3 機材に設定されているネットワークに接続する

タスクトレイ (Windows 画面の右下) の  をクリックして、機材に設定されている SSID と同じ名前を選択してください。

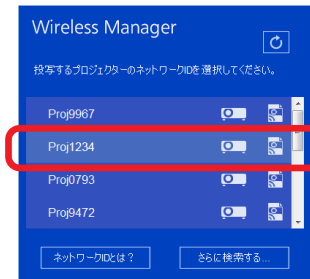
[M-DIRECT] の設定で使用する (つづき)

■ 機材の選択

4 本ソフトウェア を起動して＜かんたん接続＞画面を表示する

🔗 「ソフトウェアを起動する」(18 ページ)

＜かんたん接続＞画面を用いて、1 台の機材を使用する場合



リストから機材に表示されているネットワーク ID に一致する機材をクリックし選択します。
機材が映像を表示できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。
操作手順5以降は、必要ありません。

＜プロジェクター検索＞画面を用いて、1 台の機材を使用する場合



[さらに検索する...] をクリックし、
＜プロジェクター検索＞画面を表示してください。

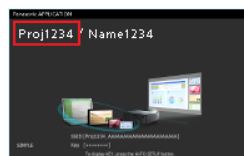


以降、操作手順5にお進みください。

5 [使用台数] ボタンの **1台** をクリックし、[検索切換] ボタンの **U** をクリックする

6 機材に表示されているプロジェクター名またはディスプレイ名とネットワーク ID に一致する機材をクリックする

複数台の機材を同時に使用する場合は、使用する機材をすべて選んでください。



ネットワーク ID の表示箇所
(プロジェクターの映像例)



＜プロジェクター検索＞画面の表示例
(本ソフトウェアの画面)

- ネットワークの設定を正しく行っても機材が見つからない場合は、「IP アドレス検索で使用する」(36 ページ) をご利用ください。

7 [使用する] をクリックする

機材が映像を表示できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。

🔗 「ランチャー」(39 ページ)

🔗 お知らせ

- コンピューターのネットワークを設定するときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。
- 使用する機材により、プロジェクター名またはディスプレイ名とネットワーク ID の表示箇所は異なる場合があります。
🔗 「機材を確認する」(16 ページ)

有線LANで接続して使用する

有線LANで接続されている機材を選択して、コンピューターの画面を表示します。

- あらかじめ、機材の電源を入れて、プロジェクター名またはディスプレイ名とネットワークIDを確認しておきます。
🔗「機材を確認する」(16 ページ)

■ 機材の設定

1 機材のネットワーク設定をする

- ① ネットワークメニューを選択する
プロジェクターの場合：
メニュー画面から[ネットワーク]で[有線LAN]を選択する
フラットパネルディスプレイの場合：
リモコンの[SET UP]ボタンを押し、[ネットワーク設定]で[有線LAN]を選択する
- ② ネットワークの設定をする
🔗 プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書

工場出荷時の設定内容	
DHCP	オフ
IPアドレス	192.168.10.100
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.10.1

■ コンピューターの設定

2 TCP/IP の設定を変更する

Windows 8.1 の場合

- ① キーボードの[Windows ロゴ]を押しながら[X]を押し、[コントロール パネル] → [ネットワークとインターネット] → [ネットワークと共有センター] → [アダプターの設定の変更]を選択する
- ② 変更する接続を右クリックし、[プロパティ]をクリックする
- ③ [ネットワーク]タブをクリックする
- ④ 「この接続は次の項目を使用します」で[インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)]をクリックし、[プロパティ]をクリックする

Windows 10 の場合

- ① タスクバーの検索ボックスで「コントロール パネル」と入力して[コントロール パネル]を起動し、[ネットワークとインターネット] → [ネットワークと共有センター] → [アダプターの設定の変更]を選択する
- ② 変更する接続を右クリックし、[プロパティ]をクリックする
- ③ [ネットワーク]タブをクリックする
- ④ 「この接続は次の項目を使用します」で[インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)]をクリックし、[プロパティ]をクリックする

3 機材の設定に合わせて、コンピューターのネットワークを設定する

[次のIPアドレスを使う]をクリックし、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、および「デフォルトゲートウェイ」のボックスに値を入力する

- コンピューターのネットワークを設定するときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。

ネットワーク設定が工場出荷時の機材と接続する場合	
IPアドレス	192.168.10.101
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.10.1

有線LANで接続して使用する(つづき)

■ 機材の選択

4 本ソフトウェアを起動して<かんたん接続>画面を表示する

🔊 「ソフトウェアを起動する」(18 ページ)

<かんたん接続>画面を用いて、1 台の機材を使用する場合



リストから機材に表示されているネットワークIDに一致する機材をクリックし選択します。機材が映像を表示できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。操作手順5以降は、必要ありません。

<プロジェクター検索>画面を用いて、1 台もしくは複数台の機材を使用する場合



[さらに検索する...]をクリックし、<プロジェクター検索>画面を表示してください。



以降、操作手順5にお進みください。

5 使用する機材の台数に応じて[使用台数] ボタンの **1台**、または **複数台** をクリックし、[検索切替] ボタンの **U** をクリックする

6 機材に表示されているプロジェクター名またはディスプレイ名とネットワークIDに一致する機材をクリックする

複数台の機材を同時に使用する場合は、使用する機材をすべて選んでください。



ネットワークIDの表示箇所
(プロジェクターの映像例)



<プロジェクター検索>画面の表示例
(本ソフトウェアの画面)

- ネットワークの設定を正しく行っても機材が見つからない場合は、「IPアドレス検索で使用する」(36 ページ) をご利用ください。

7 [使用する]をクリックする

機材が映像を表示できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。

 [「ランチャー」\(39 ページ\)](#)

お知らせ

- コンピューターのネットワークを設定するときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。
- 使用する機材により、プロジェクター名またはディスプレイ名とネットワークIDの表示箇所は異なる場合があります。
 [「機材を確認する」\(16 ページ\)](#)
- 複数台の機材を選択して使用する場合は、[使用台数] ボタンの **複数台** を選択してください。
最大で8台の機材を同時に使用することができます。

 [21 ページ](#)

USB ディスプレイ機能を使用する

USB ディスプレイ機能は、コンピューターと機材をUSB ケーブルで接続して、コンピューターの画面や音声を機材に送信する機能です。

ただし、Windows 10 をご使用の場合、この機能は使えません。

1 機材とコンピューターの電源を入れる

2 USB ディスプレイ機能を有効にする

- 機材がPT-VZ575N/PT-VW535N/PT-VX605N、PT-VZ585N/PT-VW545N/PT-VX615N、PT-VW345N/PT-VX415N、またはPT-VW355N/PT-VX425Nの場合
この手順の操作は不要です。手順3に進んでください。
- 機材がPT-VZ575N/PT-VW535N/PT-VX605N、PT-VZ585N/PT-VW545N/PT-VX615N、PT-VW345N/PT-VX415N、またはPT-VW355N/PT-VX425N以外の場合
機材の設定メニューで[USB 端子]を[ディスプレイ]に設定してください。

🔗 プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書

3 機材とコンピューターをUSB ケーブルで接続する

本ソフトウェアが自動的に起動し、映像の表示を開始します。

📌お知らせ📌

- USB ディスプレイ機能を搭載している機材のみUSB ディスプレイを動作することができます。
機材の機種により使用できる機能が異なります。
対応機能については、WEB サイト (https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application) または (https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software) の「対応機種一覧表」、または、機材の付属品に本ソフトウェアのCD-ROMがある場合はCD-ROM内のアプリケーションランチャーにある「対応機種一覧表」をご覧ください。
- 映像を表示中にUSB ケーブルを抜いた後で、再度USB ケーブルを接続する場合は、しばらく(10 秒以上) 待ってから接続してください。
- USB ケーブルは、コンピューターのUSB コネクタに直接接続してください。USB ハブなどを経由して接続すると動作しないことがあります。
- 使用するコンピューターのUSB ポートを変更すると、再度「新しいハードウェアの検索ウィザード」が表示され、接続の設定を行う必要があります。
- Windows 8.1 で使用する場合、「新しいハードウェアの検索ウィザード」が自動的に起動しない場合があります。その場合は、「デバイスマネージャー」→「ほかのデバイス」→「RNDIS/Ethernet Gadget」の項目を選び、手動でUSB ディスプレイドライバをインストールしてください。

機材を選択する

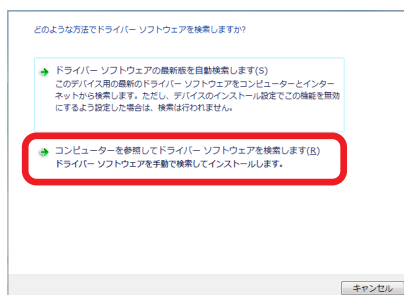
● USB ケーブル接続時に<新しいハードウェアの検索ウィザードの開始> 画面が表示された場合

■ 機材の付属品に本ソフトウェアのCD-ROMがある場合

1 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする

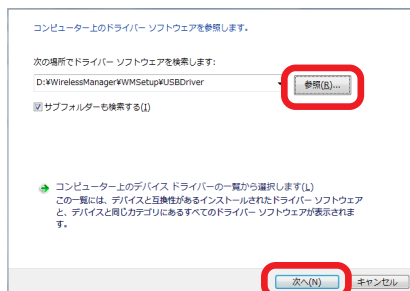
- USB ディスプレイドライバは、
WEB サイト (https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application) からダウンロードすることができます。

2 「コンピューターを参照してドライバソフトウェアを検索します」をクリックする



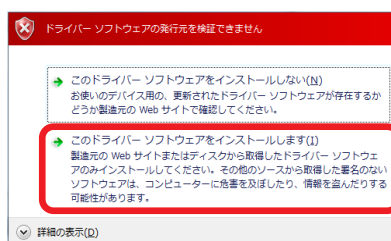
USB ディスプレイ機能を使用する (つづき)

- 3 「次の場所でドライバーソフトウェアを検索します」の [参照] をクリックし、「フォルダーの参照」ダイアログで CD-ROM 内の「USBDriver」フォルダーを選択して、[OK] をクリックする
- 「USBDriver」フォルダーは、CD-ROM 内の「¥WirelessManager¥WMSetup」フォルダーにあります。



- 4 ウィザード画面に戻るので、[次へ] をクリックする

- 5 <Windows セキュリティ> 画面が表示されるので、「このドライバーソフトウェアをインストールします」をクリックする



- 6 [閉じる] をクリックする



■ WEB サイトからダウンロードしたファイルを使用する場合

- [USB ドライバー] をクリックし、案内に従って、コンピューターへのインストール用のファイルをダウンロードしてください。
- ダウンロード後のインストール方法については、WEB サイトの情報を参照ください。

お知らせ

- USB ディスプレイドライバーは、WEB サイト (https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application) からダウンロードすることができます。

IP アドレス検索で使用する

機材の IP アドレスを直接入力し、機材を検索します。

- 機材とコンピュータをあらかじめ通信可能なネットワークに接続しておく必要があります。
詳しくは、ネットワーク管理者に確認してください。
- あらかじめ、機材の電源を入れて待ち受け画面を表示しておきます。
🔗「機材を確認する」(16 ページ)

1 本ソフトウェア を起動して＜かんたん接続＞画面を表示する

🔗「ソフトウェアを起動する」(18 ページ)



[さらに検索する...] をクリックし、＜プロジェクト検索＞画面を表示してください。



2 使用する機材の台数に応じて [使用台数] ボタンの **1台**、または **複数台** をクリックし、[検索切換] ボタンの **IP** をクリックする



■ 1 台の機材と通信する場合

3 使用する機材の IP アドレスを入力し をクリックする



IP アドレス検索で使用する (つづき)

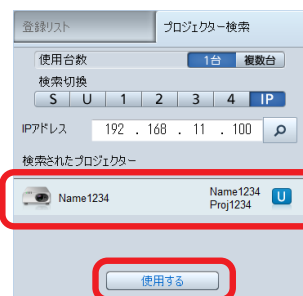
4 検索した機材のプロジェクター名またはディスプレイ名とネットワーク ID を確認したうえで [使用する] をクリックする

機材が映像を表示できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。

☞ 「ランチャー」 (39 ページ)



ネットワーク ID の表示箇所
(プロジェクターの映像例)



<プロジェクト検索> 画面の表示例
(本ソフトウェアの画面)

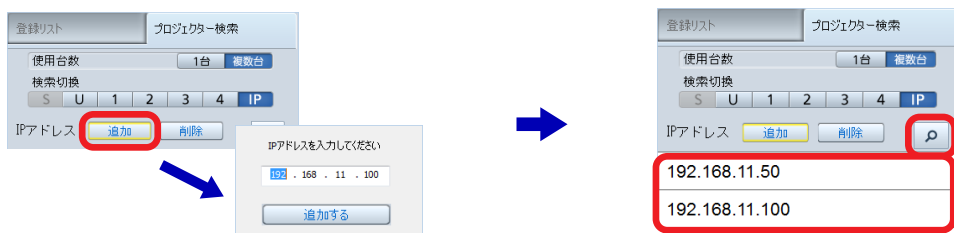
お知らせ

- 使用する機材により、プロジェクト名またはディスプレイ名とネットワーク ID の表示箇所は異なる場合があります。
☞ 「機材を確認する」 (16 ページ)

■ 複数台の機材と通信する場合

3 [追加] をクリックして、使用する機材すべての IP アドレスを入力し、🔍 をクリックする

- 入力した IP アドレスを削除する場合は、削除する IP アドレスを選択し、[削除] をクリックします。



4 検索した機材のプロジェクター名またはディスプレイ名とネットワーク ID を確認したうえで [使用する] をクリックする

機材が映像を表示できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。

☞ 「ランチャー」 (39 ページ)



ネットワーク ID の表示箇所
(プロジェクターの映像例)



<プロジェクト検索> 画面の表示例
(本ソフトウェアの画面)

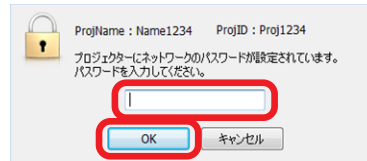
お知らせ

- 使用する機材により、プロジェクト名またはディスプレイ名とネットワーク ID の表示箇所は異なる場合があります。
☞ 「機材を確認する」 (16 ページ)
- 複数台の機材を選択して使用する場合は、[使用台数] ボタンの **複数台** を選択してください。
最大で 8 台の機材を同時に使用することができます。

☞ 21 ページ

機材にパスワードが設定されている場合

パスワードが設定されている機材に接続した場合、＜パスワード入力＞画面が表示されます。
機材に設定されているネットワークのパスワードを入力し、[OK] をクリックしてください。

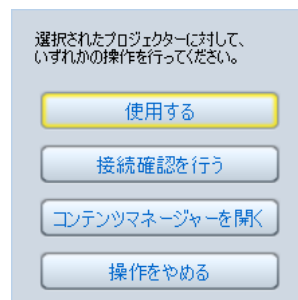


お知らせ

- ＜パスワード入力＞画面で [キャンセル] をクリックすると、機材を選択する前の画面に戻ります。
パスワードの設定方法については、使用している機材の取扱説明書を確認してください。
- 使用する機材の中にパスワードが必要な機材が複数台あった場合は、1 台ごとに＜パスワード入力＞画面が表示されます。
ネットワーク ID を確認して、該当するパスワードを入力してください。

機材がコンテンツマネージャーを搭載している場合

コンテンツマネージャーを搭載している機材に接続した場合、次の選択画面が表示されます。



【使用する】

機材と接続して、映像の表示ができる状態になります。

【接続確認を行う】

接続しようとしている機材のインジケータを点滅させます。

【コンテンツマネージャーを開く】

コンピュータの WEB ブラウザーを使って、コンテンツマネージャーを表示します。

【操作をやめる】

機材を選択する画面に戻ります。

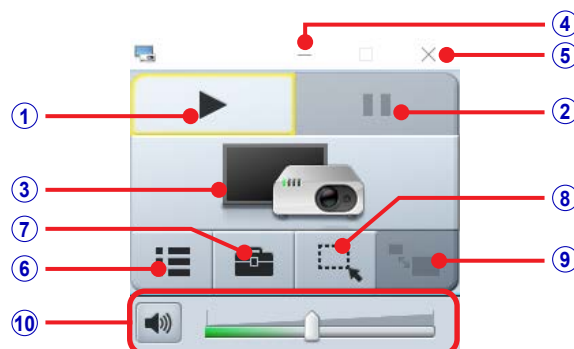
お知らせ

- コンテンツマネージャーにて、サイネージ再生 / サイネージ設定の状況が確認できます。
サイネージ再生機能 / サイネージ設定機能の詳細については、機材の取扱説明書をご覧ください。

ランチャーを操作する

本ソフトウェアを起動すると、＜かんたん接続＞画面とともにランチャーが表示されます。
機材の操作（映像の表示の開始や停止）や音量調整、また他の画面を表示するなどさまざまな操作をランチャーで行うことができます。
機材と通信ができているときは、映像の表示を制御するボタンの操作が有効になります。

■ ランチャー



① 映像の表示の開始と停止を行います。

映像を表示中は、（停止）に変わります。

② 映像の表示を一時停止します。

映像を表示中のみ操作ができます。
操作を行ったときの画像で静止します。

③ 機材との通信状態をアイコンで表示します。

1 台の機材と通信しているときは、機材が 1 台のアイコンが表示されます。



映像を表示不可

機材が選択されておらず、通信していない状態です。



映像を表示可能

機材が選択されており、通信している状態です。



映像を表示中

現在、機材から映像を表示しており、通信している状態です。

④ ランチャーの表示を最小にします。

⑤ 本ソフトウェアを終了します。

40 ページ

⑥ ＜かんたん接続＞画面、＜登録リスト＞画面、または＜プロジェクター検索＞画面を表示します。

機材を選択する画面を表示します。このとき、映像を表示する機材を選択したときに使用した画面を表示します。

⑦ ＜オプション＞画面を表示します。

50 ページ

⑧ ＜エリア指定＞画面を表示します。

49 ページ

⑨ 表示中の映像を拡大・縮小します。

対応している機材から、ライブモードで映像を表示している場合のみ操作できます。

52 ページ

⑩ 音量を調整します。（初期設定では、表示されません。）

40 ページ

お知らせ

- ランチャーは映像に表示される場合があります。表示させたくない場合は、ランチャーの表示を最小にしてください。
- ランチャーの位置は、マウスでドラッグして自由に変えることができます。
- ランチャーの表示を最小にしてタスクバーに収納したときは、タスクバー内の をクリックすることで、ランチャーを再度表示させることができます。
- 「プロジェクターの選択と同時に投写を開始する」(50 ページ) を有効にしている場合は、機材との通信が完了すると、 をクリックしなくても映像の表示を開始します。
- 動画再生用のアプリケーションによっては、動画部分が再生されないことがあります。

ランチャーを操作する(つづき)

- スタンバイ状態の機材をランチャーで開始操作を行うと、電源が入って映像の表示を開始します。

お願い

- プロジェクターの電源を入れる操作をする際は、プロジェクター周辺の人の目に突然光源からの光が入らないよう注意してください。

お知らせ

- 電源コンテンツは、突然プロジェクターが投写を開始してもプロジェクター周辺の人の目に光源からの光が入らない設置環境の場合のみタイムテーブルに登録してください。

■ 音量を調節する

- ランチャーの   を調整する
出力される音量を調整することができます。



■ 音量を調整するアイコンが表示されない場合

ランチャーの  をクリックして＜オプション＞画面を開き、[設定] → 「投写時に映像と一緒に音声も出力する」にチェックをつけてください。

☞「オプションの設定」(50 ページ)

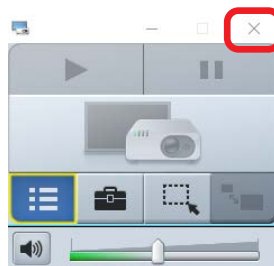
映像を表示する

お知らせ

- 本ソフトウェアをインストールしないで使用している場合は、利用できません。
- 複数台の機材と同時に通信している場合は、利用できません。
- 本ソフトウェアの起動中、音声再生は専用の再生デバイスを使用しますので、映像を表示中のみ、コンピューターの音声を機材から出力することができます。
本ソフトウェアを終了すると、元の Windows の再生デバイスに切り換わります。

■ ソフトウェアを終了する

- ランチャーの  をクリックする



お知らせ

- オプションの設定「起動時にかんたん接続画面を表示する」にチェックが入っておらず、登録リストに機材が1台も登録されていない場合、最後に使用した機材が自動的に登録されます。このとき、複数台の機材を使用していた場合には、グループとして自動的に登録されます。
次回、＜登録リスト＞画面から同じ機材を選ぶことができ、手軽に映像を表示することができます。

☞「登録済みの機材を選択する」(23 ページ)

機材またはグループを登録する

本ソフトウェアの<登録リスト>画面には、機材、および複数の機材で構成されるグループを合計4つまで登録することができます。

機材を登録することで、ワンクリックでコンピューターの画面を機材を使って表示することができます。



<登録リスト>画面の[<プロジェクターを登録できます>]をクリックすると<プロジェクター登録>画面が表示されます。

■ <プロジェクター登録> 画面



① [登録台数] ボタン

機材 1 台を登録するか、複数台の機材で構成されるグループで登録するかを切り換えます。

② [検索切替] ボタン

検索方法を切り換えます。

🔍 「[検索切替] ボタン」 (21 ページ)

ボタン	検索する機材
	無線LAN接続が[シンプル]、[S-DIRECT]、または[S-MAP]に設定されている機材を検索します。 複数台の機材で、同時に映像を表示することはできません。
	無線LAN接続が[USER]、[M-DIRECT]に設定されている機材、または有線LANで接続した機材を検索します。
	無線LAN接続が[1] ~ [4]に設定されている機材を検索します。
	IPアドレスを指定して機材を検索します。

③ 更新ボタン

ボタンをクリックすることで、機材の検索結果を最新の状態に更新します。

④ [登録する] ボタン

選択した機材を登録して<登録リスト>画面に戻ります。

🔍 20 ページ

⑤ [キャンセル] ボタン

<登録リスト>画面に戻ります。

🔍 20 ページ

機材またはグループを登録する(つづき)

ここでは、機材やグループを登録する手順を説明します。

1 本ソフトウェア を起動して<登録リスト>画面を表示する



2 [<プロジェクターを登録できます>] をクリックして<プロジェクター登録>画面を表示する



3 登録する機材の台数に応じて[登録台数] ボタンの **1台**、または **複数台** をクリックし、機材に表示されている無線LANの接続方法に該当する[検索切換] ボタンをクリックする

無線LANの接続方法が[シンプル]、[S-DIRECT]、または[S-MAP]のときは、**S** をクリックします。

その他の無線LANの接続方法については、「[検索切換] ボタン」(21 ページ)の「検索する機材」を参照してください。

- <プロジェクター登録>画面を表示したときは、**1台** が選択されています。
- **複数台** を選択した場合は、**S** を選択することができません。



ネットワークIDの表示箇所
(プロジェクターの映像例)



<プロジェクター登録>画面の表示例
(本ソフトウェアの画面)

4 機材に表示されているプロジェクター名またはディスプレイ名とネットワークIDに一致する機材をクリックする



ネットワークIDの表示箇所
(プロジェクターの映像例)



<プロジェクター登録>画面の表示例
(本ソフトウェアの画面)

機材またはグループを登録する (つづき)

5 「登録する」をクリックする

登録した機材が<登録リスト>画面に表示されます。



<プロジェクター登録>画面の表示例
(本ソフトウェアの画面)



<登録リスト>画面の表示例
(本ソフトウェアの画面)

お知らせ

- 使用する機材により、プロジェクター名またはディスプレイ名とネットワークIDの表示箇所は異なる場合があります。
☞「機材を確認する」(16 ページ)
- 無線LAN 設定が[シンプル]の場合は、機材に設定されている名前ではなく、[SIMPLE]が登録名として登録されます。その他の無線LAN設定の場合は、プロジェクター名またはディスプレイ名が登録名として登録されます。登録名を変更する場合は、「登録した名前を変更する」(44 ページ)を参照してください。
- 複数の機材をグループで登録する場合は、[登録台数] ボタンの **複数台** を選択して、使用する機材をすべて選んで登録してください。
- 複数の機材をグループで登録する場合は、それぞれの機材の無線LANの接続方法が同一である必要があります。

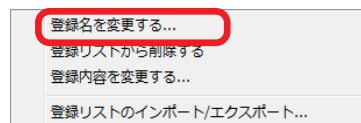
登録した名前を変更する

＜登録リスト＞画面に登録した機材やグループの登録名を変更します。

- 1 ＜登録リスト＞画面で、名前を変更する機材、またはグループにマウスカーソルを移動して右クリックする



- 2 [登録名を変更する] をクリックする



- 3 新しい名前を入力して [OK] をクリックする



お知らせ

- 入力できる文字数は、最大で 16 文字です。
- 下記の文字は、使用することができません。
¥ / : * ? ^ < > |

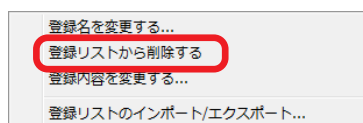
登録した機材またはグループを削除する

＜登録リスト＞画面に登録した機材やグループを削除します。

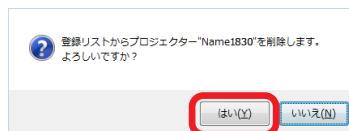
- 1 ＜登録リスト＞画面で、削除する機材、またはグループにマウスカーソルを移動して右クリックする



- 2 [登録リストから削除する]をクリックする



- 3 削除を確認するメッセージが表示されるので、[はい]をクリックする



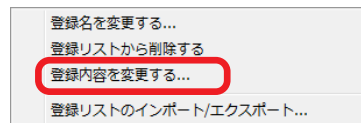
別の機材またはグループに変更する

<登録リスト>画面に登録した機材やグループを、別の機材やグループに変更します。

1 <登録リスト>画面で、変更する機材、またはグループにマウスカursorを移動して右クリックする



2 [登録内容を変更する]をクリックする



3 別の機材を検索する

🔍 「機材またはグループを登録する」(41 ページ)

4 変更を確認するメッセージが表示されるので、[はい]をクリックする



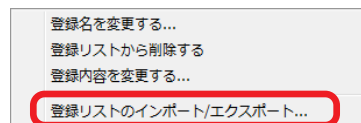
登録リストをエクスポートする

登録リストの情報をファイルへエクスポートすることができます。
別のコンピュータに登録リストの情報を移行するときに便利です。

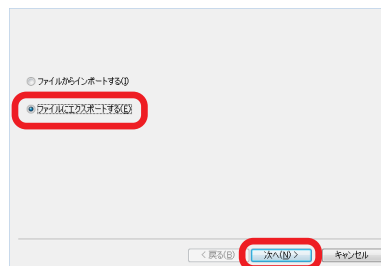
1 <登録リスト> 画面の上にマウスカースルを移動して右クリックする



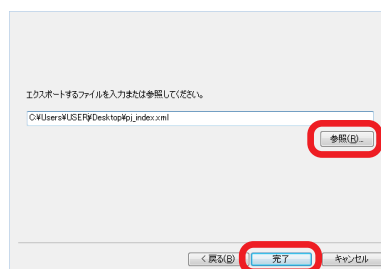
2 [登録リストのインポート/エクスポート] をクリックする



3 「ファイルにエクスポートする」を選択して[次へ]をクリックする



4 [参照] をクリックする



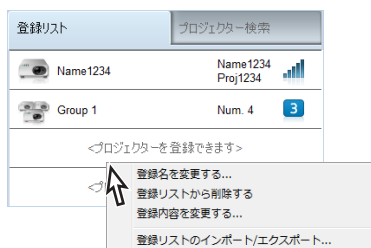
エクスポート先を参照する画面が表示されますので、エクスポート先のフォルダーを選択して[完了]をクリックしてください。

- ファイル名を指定しない場合は、ファイル名として「pj_index.xml」が自動的に設定されます。

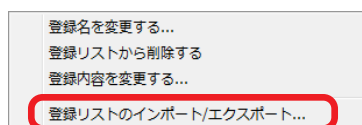
登録リストをインポートする

別のコンピュータでエクスポートした登録リストの情報をインポートすることができます。
別のコンピュータで作られた登録リストの情報を移行するときに便利です。

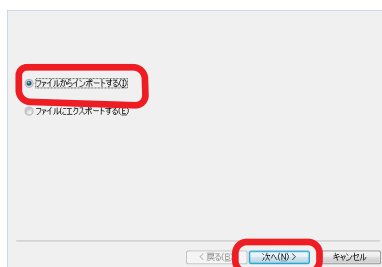
1 <登録リスト> 画面の上にマウスカースルを移動して右クリックする



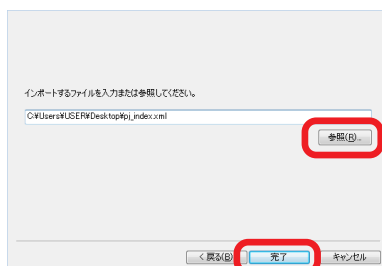
2 [登録リストのインポート/エクスポート] をクリックする



3 「ファイルからインポートする」を選択して[次へ]をクリックする

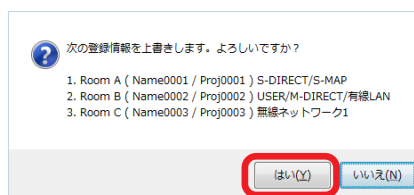


4 [参照] をクリックする



インポート先を参照する画面が表示されますので、インポートするファイル（拡張子：xml）を選択して[完了]をクリックしてください。

5 インポートする内容を確認するメッセージが表示されるので、[はい] をクリックする

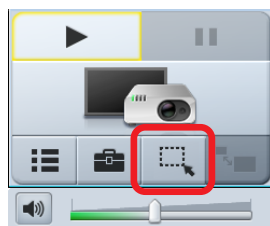


エリア指定送信

コンピュータで表示されている画面のうち、必要な情報のみをエリア指定ウィンドウで指定し、映像を表示することができます。

1 ランチャーの をクリックする

エリア指定ウィンドウ（範囲選択画面）が表示されます。



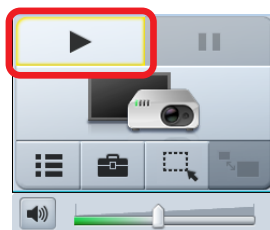
2 エリア指定ウィンドウで送信したい部分を指定する

通常のウィンドウの移動・サイズ変更の手順でエリア指定ウィンドウを操作できます。



3 ランチャーの をクリックする

エリア指定ウィンドウ内の映像が表示されます。



■ エリア指定送信を終了する

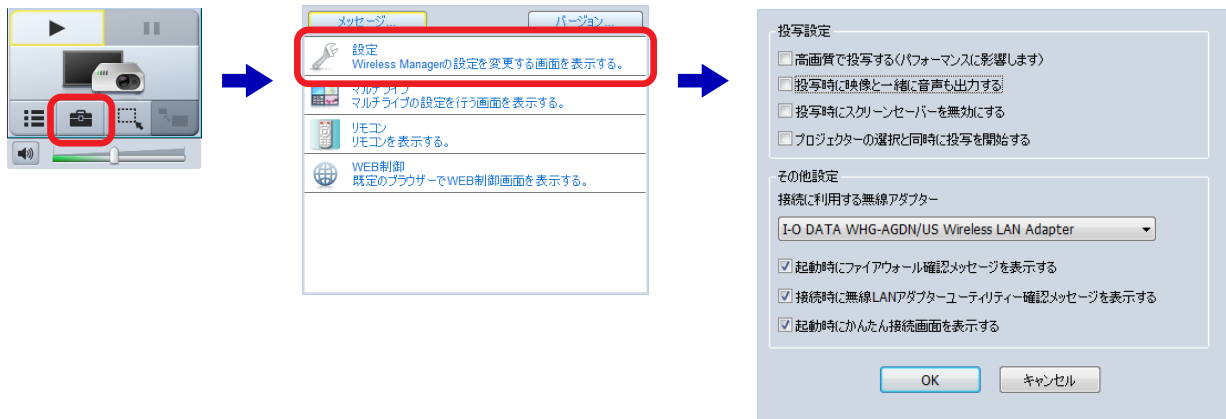
- エリア指定ウィンドウ右上の  をクリックする



オプションの設定

オプション機能を使って、映像を表示時の設定などを変更することができます。

＜オプション＞画面を開くには、ランチャーの  [オプション] をクリックします。



■ 投写設定

■ 「高画質で投写する（パフォーマンスに影響します）」

映像を高画質で表示します。

ただし、画質を優先するため映像の表示速度が遅くなる場合があります。

映像の表示速度を優先する場合は、チェックを外します。

■ 「投写時に映像と一緒に音声も出力する」

映像の表示中に機材から音声を出力します。

音声を出力しない場合は、チェックを外します。

- 本ソフトウェアをインストールしないで使用している場合は、利用できません。
- 複数台の機材と同時に通信している場合は、利用できません。

■ 「投写時にスクリーンセーバーを無効にする」

映像を表示中、コンピューターのスクリーンセーバー機能を無効にします。

- パスワード付きのスクリーンセーバーが無効になりますので、席を離れる場合には注意してください。

■ 「プロジェクターの選択と同時に投写を開始する」

＜登録リスト＞画面、または＜プロジェクター検索＞画面から機材を選択すると、自動的に映像の表示が始まります。

ランチャーの  をクリックする必要はありません。

お知らせ

- プロジェクターの場合、ご使用のプロジェクターの表示デバイスのアスペクト比によって、投写映像の表示解像度が異なります。
 - 4:3の場合：1 024 x 768 ドットの映像が、プロジェクターの表示ドット数で表示されます。
 - 4:3以外の場合：1 280 x 800 ドットの映像が、プロジェクターの表示ドット数で表示されます。
- フラットパネルディスプレイの場合、1 280 x 800 ドットの映像が、フラットパネルディスプレイの表示ドット数で表示されます。

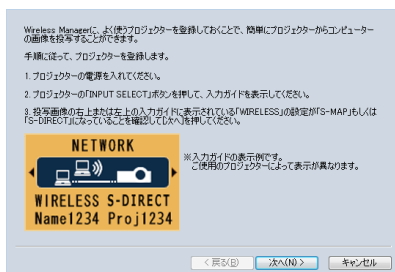
オプションの設定 (つづき)

■ その他設定

■ 「起動時にかんたん接続画面を表示する」

本ソフトウェア起動時に、チェックが入っていると、＜かんたん接続＞画面を表示し、チェックが外れてあると、＜プロジェクター登録＞または＜プロジェクター検索＞画面を表示します。

- チェックを外し、機材を1台も登録していない場合、本ソフトウェアの起動時に＜プロジェクターを登録します＞画面が表示されます。使用する機材の電源を入れ、画面の指示に従ってソフトに機材を登録してください。



📌 お知らせ 📌

- 機材を登録しないで操作を終了する場合は、[キャンセル]をクリックします。

■ 「接続に利用する無線LANアダプター」

機材と通信を行う無線LANアダプターを選択します。

無線LANアダプターが複数存在する場合などに、優先的に使用するアダプターを指定してください。

■ 「起動時にファイアウォール確認メッセージを表示する」

本ソフトウェアの起動時に、動作しているファイアウォールの確認メッセージを表示します。

常に確認メッセージを表示させたくない場合は、チェックを外します。

■ 「接続時に無線LANアダプターユーティリティ確認メッセージを表示する」

ネットワークの接続を切り換えるときに、動作している無線LANアダプターユーティリティの確認メッセージを表示します。

常に確認メッセージを表示させたくない場合は、チェックを外します。

ライブモード

ライブモードを利用すると、1 台のコンピュータの画面を機材から表示することができます。

また、司会者モードに対応している機種では、接続人数に応じて最大4 台のコンピュータの画面を分割表示することができます。会議などの少人数のプレゼンテーションに最適なモードです。



■ 司会者モード対応機種

最大4 台のコンピュータの画面を全体表示、または、分割表示することができます。

1 機材の設定を変更する

[メニュー] → [ネットワーク/USB] → [Panasonic APPLICATION] → [司会者モード] を[オフ]に設定する

2 ランチャーの ▶ をクリックする

接続するコンピュータの台数に応じて分割して表示されます。



● 全画面表示に切り換える

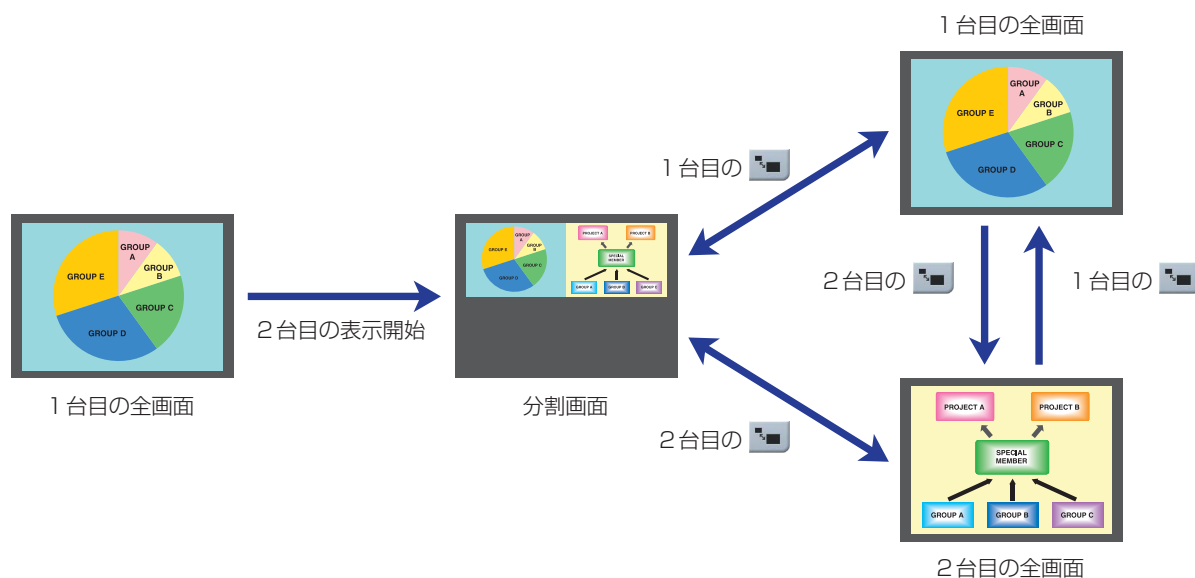
画面を分割して表示している場合、ランチャーの  をクリックすると、クリックしたコンピュータの画面が全画面で表示されます。

● 分割画面表示に切り換える

全画面表示しているコンピュータで、ランチャーの  をクリックすると、分割画面表示に戻ります。

● 別のコンピュータの画面表示中に割り込んで表示する

別のコンピュータが全画面表示中に、ランチャーの  をクリックすると、クリックしたコンピュータの画面が全画面で表示されます。



ライブモード(つづき)

お知らせ

- 別のコンピューターが全画面表示中にランチャーの  をクリックしても全画面表示ができないことがあります。
この場合、機材の設定を次のように設定してください。
[メニュー] → [ネットワーク/USB] → [Panasonic APPLICATION] → [割り込み]を[オン]にする。

■ 司会者モード非対応機種

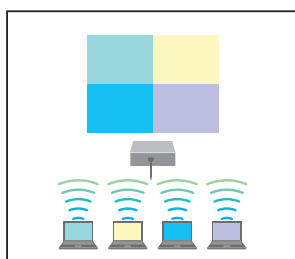
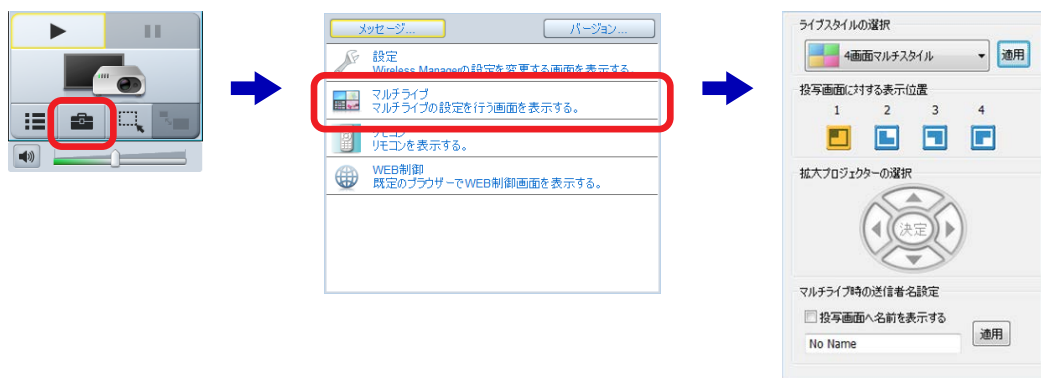
1 台のコンピューターの画面を全画面で表示することができます。

機材の設定により次のとおり動作が異なります。

- [メニュー] → [ネットワーク/USB] → [ライブモード割り込み] → [オン] の場合
別のコンピューターから表示が開始されると、別のコンピューターの全画面表示に切り換わります。
- [メニュー] → [ネットワーク/USB] → [ライブモード割り込み] → [オフ] の場合
別のコンピューターから表示が開始されても、表示中の全画面表示が継続します。

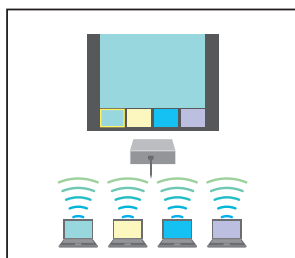
マルチライブモード

マルチライブモードを利用すると、1 台の機材に複数のコンピューターから多人数での映像の表示を行うことができます。複数のコンピューターを使った参加型ミーティングをする場合に便利な機能です。



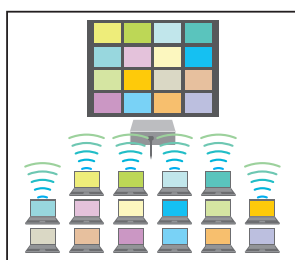
4人のコンピューターでプレゼンテーションができる ＜4画面マルチスタイル＞ 56 ページ

最大4台のコンピューター画面を同時に表示します。
それぞれのコンピューター画面が同時に確認できるので、全員参加型ミーティングに最適です。



最大4台のコンピューターを使ってプレゼンターが議事を進行する ＜4画面インデックススタイル＞ 57 ページ

4台のコンピューター画面をサムネイル表示し、リモコンで選択したコンピューターの画面を全画面で表示できます。
プレゼンターが映像を駆使しながらプレゼンテーションを進行でき、状況に応じた説明が行えます。



大学のゼミや学会で威力を発揮する多人数対応のスタイル ＜16画面インデックススタイル＞ 58 ページ

16台のコンピューター画面をサムネイル表示します。
大学のゼミや学会、グループ学習など、多くのコンピューターの画面を一覧で表示したい場合に最適です。

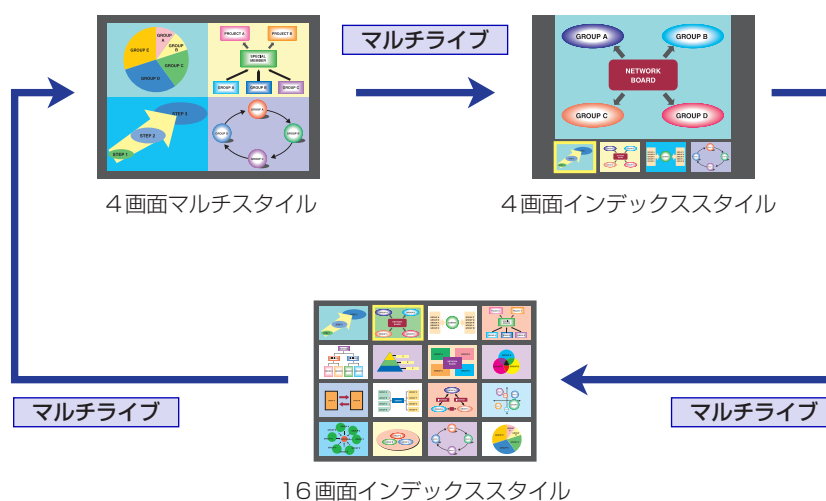
マルチライブモード (つづき)

■ ライブスタイルの切り換え方法

● 機材のメニューでスタイルを切り換える

機材の「ネットワーク」メニューから「マルチライブ」を選択し、＜決定/ENTER＞ボタンを押します。

📖 プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書



● 本ソフトウェアでスタイルを切り換える

本ソフトウェアの＜マルチライブ＞画面でスタイルを選びます。

📌 お知らせ 📌

- 機材起動時は、機材の電源を切る前に使用していたスタイルが選択されます。
- 機材と通信していないと、「送信者名の設定」(59 ページ) 以外、＜マルチライブ＞画面の操作をすることができません。
機材との通信の状態を、「ランチャー」(39 ページ) のアイコンにより知ることができます。
- 複数台の機材と通信しているときは、＜マルチライブ＞画面の操作をすることができません。
- マルチライブモードを終了する場合は、「ライブスタイルの選択」から[全画面スタイル]を選び、[適用]をクリックしてください。
- 16画面インデックススタイルで5台以上のコンピューターと通信している場合、4画面マルチスタイルに切り換えると、5台目以降のコンピューターの通信が切断されます。
- 機材から全画面で映像を表示しているときは、ライブスタイルが選択できません。
機材からの映像の表示を停止してから、ライブスタイルを選択してください。
- この機能は、対応している機種のみご利用いただけます。詳しくは、対応機種一覧表をご覧ください。

マルチライブモード (つづき)

■ 4画面マルチスタイル

最大4台までのコンピュータの画面を、1台の機材から映像を同時に表示します。

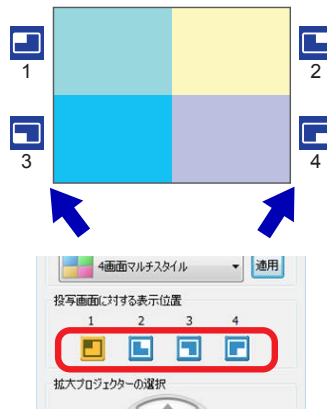
1 ランチャーの  をクリックし、＜オプション＞画面の「マルチライブ」をクリックする
🔗 [「本ソフトウェアでスタイルを切り換える」](#) (55 ページ)

2 「ライブスタイルの選択」から [4画面マルチスタイル] を選び [適用] をクリックする



3 映像を表示したい位置のアイコンをクリックする

- スクリーン面のどの位置に映像を表示するかを選択してください。



4 ランチャーの  をクリックする

コンピュータの画面が機材から表示されます。

- **映像の表示位置を切り換える**
映像を表示する位置を変更する場合は、「投写画面に対する表示位置」のアイコンをクリックして変更してください。
- **4画面マルチスタイルを解除する**
4画面マルチスタイルを解除する場合は、「ライブスタイルの選択」から [全画面スタイル] を選び、[適用] をクリックしてください。

🔔お知らせ🔔

- すでにコンピュータの画面が表示されている位置に他のコンピュータからの画面が表示された場合は、あとから映像を表示したコンピュータの画面に切り換わります。
- 全画面ライブを実施している場合、または他端末が「4画面マルチスタイル」使用時のみ、「4画面マルチスタイル」の選択ができます。

マルチライブモード (つづき)

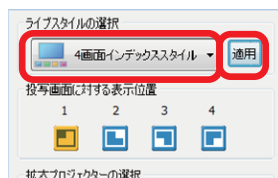
■ 4画面インデックススタイル

最大4台までのコンピュータの画面を、1台の機材からインデックス画面と大画面で同時に映像を表示します。

1 ランチャーの をクリックし、＜オプション＞画面の「マルチライブ」をクリックする

🔊 「本ソフトウェアでスタイルを切り換える」(55 ページ)

2 「ライブスタイルの選択」から [4画面インデックススタイル] を選び [適用] をクリックする



3 映像を表示したい位置の番号をクリックする

- インデックス画面 (小画面) のどの位置に映像を表示するかを選択してください。



4 ランチャーの をクリックする

コンピュータの画面が機材から映像を表示されます。

● 映像の表示位置を切り換える

映像を表示する位置を変更する場合は、「投写画面に対する表示位置」のアイコンをクリックして変更してください。

● 全画面に表示する

全画面に表示する場合は、「拡大プロジェクターの選択」の  をクリックして対象のインデックス画面を選択 (黄色の枠を移動) し、 をクリックします。

再度、 をクリックすると、全画面に表示されます。

インデックス画面に戻る場合は、もう一度  をクリックしてください。

● 4画面インデックススタイルを解除する

4画面インデックススタイルを解除する場合は、「ライブスタイルの選択」から [全画面スタイル] を選び、[適用] をクリックしてください。



🔊 お知らせ

- 4画面インデックススタイルで他のコンピュータが映像を表示している場合は、未使用のインデックス画面 (小画面) にのみ映像を表示することができます。
- 全画面表示とインデックス画面表示の切り換えは、機材側のメニューやリモコン (62 ページ) でも操作できます。
- 機種によっては、機材に付属されているリモコンに  (ページ) ボタンが付いている機種がありますが、このボタンで対象のインデックス画面 (黄色の枠) を操作することができません。

🔊 プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書

マルチライブモード (つづき)

■ 16画面インデックススタイル

最大16台までのコンピュータの画面を、1台の機材から映像を同時に表示します。

1 ランチャーの をクリックし、＜オプション＞画面の「マルチライブ」をクリックする

☞ 「本ソフトウェアでスタイルを切り換える」(55 ページ)

2 「ライブスタイルの選択」から[16画面インデックススタイル]を選び[適用]をクリックする



3 ランチャーの をクリックする

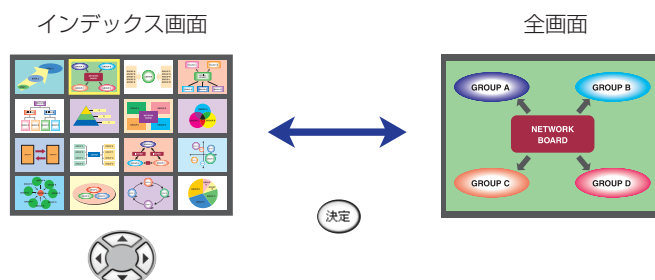
空いているインデックス画面 (小画面) に自動的にコンピュータの画面が表示されます。

表示する位置を選択することはできません。

● 全画面に表示する

全画面に表示する場合は、「拡大プロジェクターの選択」の  をクリックして対象のインデックス画面を選択 (黄色の枠を移動) し、 をクリックします。

再度、 をクリックすると、インデックス画面に戻ります。



● 16画面インデックススタイルを解除する

16画面インデックススタイルを解除する場合は、「ライブスタイルの選択」から[全画面スタイル]を選び、[適用]をクリックしてください。

📌 お知らせ 📌

- 16画面インデックススタイルで他のコンピュータが映像を表示している場合は、未使用のインデックス画面 (小画面) にのみ映像を表示することができます。
- 全画面表示とインデックス画面表示の切り換えは、機材側のメニューやリモコン (62 ページ) でも操作できます。
- 機種によっては、機材に付属されているリモコンに  (ページ) ボタンが付いている機種がありますが、このボタンで対象のインデックス画面 (黄色の枠) を操作することができません。
☞ プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書
- 機種によっては、無線LANを[シンプル]、[S-DIRECT]または[M-DIRECT]に設定している場合、無線LAN接続できる端末は最大10台です。

マルチライブモード (つづき)

■ 送信者名の設定

マルチライブモードで表示される映像に、送信者の名前を表示することができます。

1 <マルチライブ> 画面の「投写画面へ名前を表示する」にチェックを入れる

2 送信者名を入力し [適用] をクリックする

- 半角の英数字 (8文字まで) を入力してください。



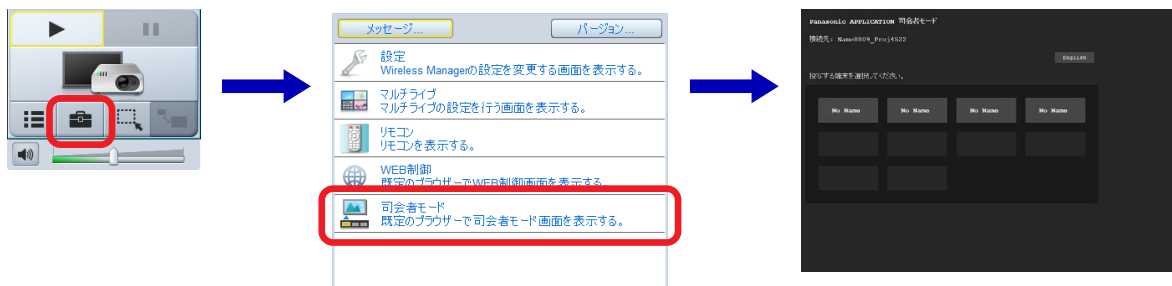
📎 お知らせ 📎

- 4画面インデックススタイル、または16画面インデックススタイルを使用している場合は、「投写画面へ名前を表示する」のチェックを外しても送信者名が表示されます。

司会者モード

司会者モードを利用すると、リモコンやWEB制御画面を用いた操作で、機材に全画面表示する端末を選択することができます。

機材に表示する最大16台までのコンピューターの画面の中から、1台のコンピューターで全画面表示する画面を選択/解除することができる便利な機能です。



■ 表示するコンピューターの画面を選択する

1 機材の[メニュー] → [ネットワーク/USB] → [Panasonic APPLICATION] → [司会者モード]を[オン]にする

2 ランチャーの をクリックし、<オプション>画面の「司会者モード」をクリックする
WEBブラウザが起動し、認証ダイアログが表示されます。

3 機材で設定した司会者モード専用の「ユーザー名」と「パスワード」を入力して[OK]をクリックする
「Panasonic APPLICATION 司会者モード」のページが表示されます。

4 表示したいコンピューターの送信者名のボタンをクリックする

選択したコンピューターの画面が機材に全画面表示されます。

このとき、全画面表示しているコンピューターの送信者名のボタンの色が変わります。再度、全画面表示しているコンピューターの送信者名のボタンを押すと、複数のコンピューターの画面が表示された画面に戻ります。

🔧 お知らせ 🔧

- この機能は、対応している機種のみご利用いただけます。詳しくは、対応機種一覧表をご覧ください。
- 司会者モードに対応した機材と通信しているときのみ、オプション画面に[司会者モード]は表示されます。
- 通信している機材の機種により、対応するWEBブラウザのバージョン、およびWEBブラウザに表示される内容が異なることがあります。
[📖 プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書](#)
- 無線LANを[シンプル]または[M-DIRECT]に設定している場合、無線LAN接続できるコンピューターは最大10台となり、表示できる画面も10台までとなります。
- [司会者モード]をクリックして表示されるWEB画面の、司会者モード専用のユーザー名とパスワードは以下の設定が工場出荷時の設定になります。ただし、使用している機材の機種によりパスワードは異なりますので、機材の取扱説明書をご覧ください。
ユーザー名: moderator
パスワード: @Panasonic (または panasonic)
- 司会者モード専用のユーザー名とパスワードは、管理者権限のユーザーでログインした、「WEB制御」ページ内の[パスワード変更]ボタンを押して変更することが可能です。
- [司会者モード]をクリックして表示されるWEB画面は「WEB制御」の管理者権限のユーザーでもご利用いただけますが、司会者モード専用ユーザーでのご使用をお勧めします。
- [司会者モード]は複数台の機材と通信している場合は、使用できません。

複数台ライブモード

複数台ライブモードを利用すると、複数台の機材（最大8台）から1台のコンピュータの画面を表示することができます。複数台ライブモードを利用するためには、機材を無線LAN接続の[USER]の設定にする必要があります。

🔗「[USER]の設定で使用する」(26 ページ)

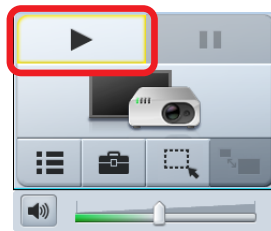
1 機材とコンピュータを同じネットワークに接続する

ネットワークの設定方法については、「[USER]の設定で使用する」(26 ページ)の1～3を参照ください。

2 本ソフトウェア を起動して複数台の機材を選択する



3 ランチャーの をクリックする



📌お知らせ📌

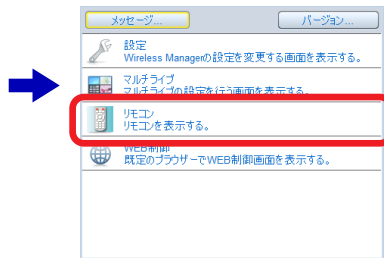
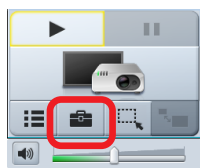
- 機材は最大で8台まで選択することができます。
- 司会者モード対応機種の場合、複数台ライブモードを使用するためには、機材の[メニュー] → [ネットワーク/USB] → [Panasonic APPLICATION] → [司会者モード]を[オフ]にする必要があります。
- 司会者モード非対応機種の場合、複数台ライブモードを使用するためには、マルチライブモードを4画面マルチスタイルにする必要があります。

🔗「マルチライブモード」(54 ページ)

ブラウザーリモコン

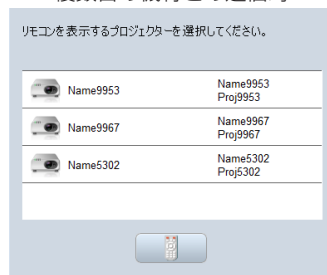
コンピュータの画面にリモコン、または、ブラウザーリモコンを表示して、機材を操作することができます。

ブラウザーリモコンとは、WEB ブラウザー上に表示した各種ボタンを用いて機材の操作を実現するものです。通信する機材の機種により表示するボタンは異なります。



1 台の機材と通信時

複数台の機材との通信時



お知らせ

- 機材と通信していないと操作することができません。
機材との通信の状態を、「ランチャー」(39 ページ) のアイコンにより知ることができます。
- 複数台の機材を制御したい場合、それぞれの機材を選択して個別に制御してください。
- ブラウザーリモコンを表示することができるのは、<ブラウザーリモコン>対応機種のみです。対応機種については、WEB サイト (https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application) または (https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software) の「対応機種一覧表」をご覧ください。
- <ブラウザーリモコン>非対応機種の場合、制御している機材により、利用できないボタンがあります。
- [リモコン] をクリックして表示される認証画面のユーザー名とパスワードは、通信している機材に設定したユーザー名とパスワードをそれぞれ入力ください。

📖 プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書

WEB 制御

コンピュータのWEB ブラウザーを使用して、機材を制御することができます。

📖 プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書、またはネットワーク操作編

- 複数台の機材と通信している場合は、操作する機材を選択して [WEB 制御] をクリックしてください。



📌 お知らせ 📌

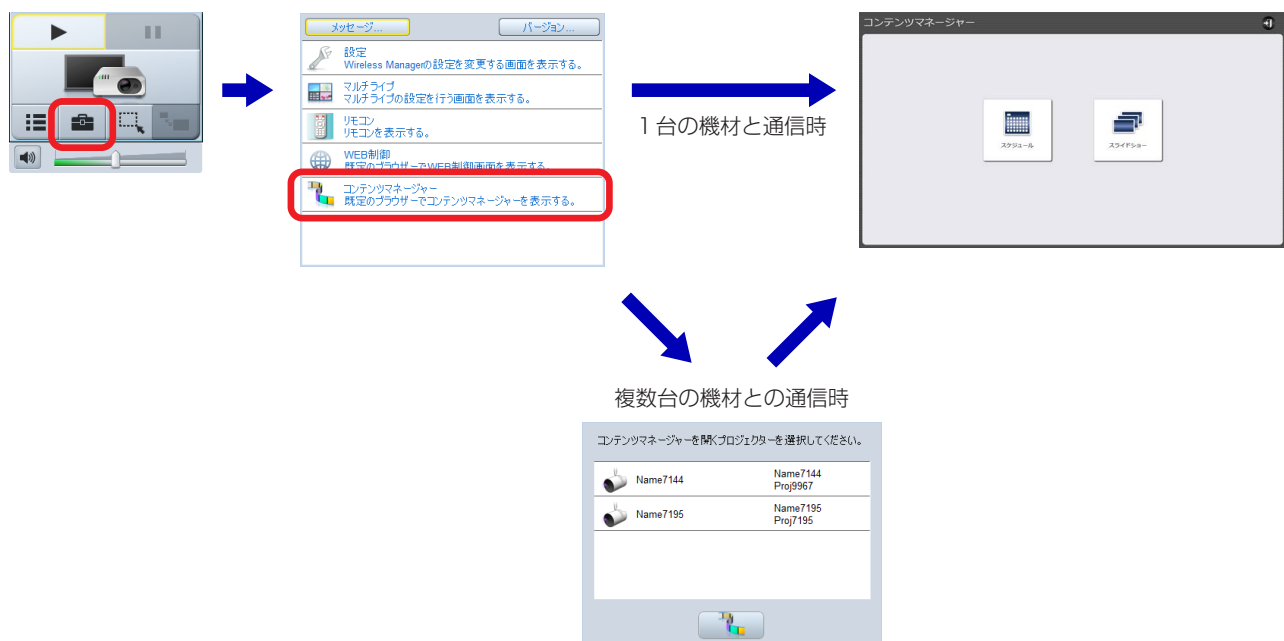
- 機材と通信していないと操作することができません。
機材との通信の状態を、「ランチャー」(39 ページ) のアイコンにより知ることができます。
 - 通信している機材の機種により、WEB ブラウザーに表示される内容が異なります。
 - [WEB 制御] をクリックして表示される認証画面のユーザー名とパスワードは、通信している機材に設定したユーザー名とパスワードをそれぞれ入力ください。
- 📖 プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書

コンテンツマネージャー

コンピュータのWEB ブラウザーを使って、コンテンツマネージャーを表示することができます。

📖 プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書

- 複数台の機材と通信している場合は、コンテンツマネージャーを表示する機材を選択して[コンテンツマネージャー]をクリックしてください。



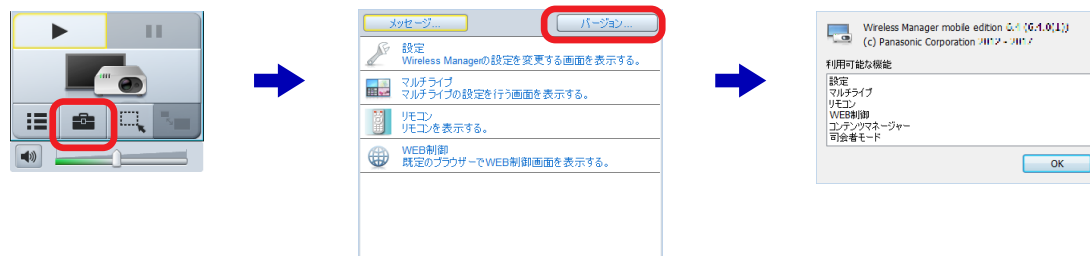
お知らせ

- コンテンツマネージャーを搭載した機材と通信しているときのみ、オプション画面に[コンテンツマネージャー]は表示されます。
- 通信している機材の機種により、対応するWEB ブラウザーのバージョン、およびWEB ブラウザーに表示される内容が異なることがあります。

📖 プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイの取扱説明書

バージョン情報

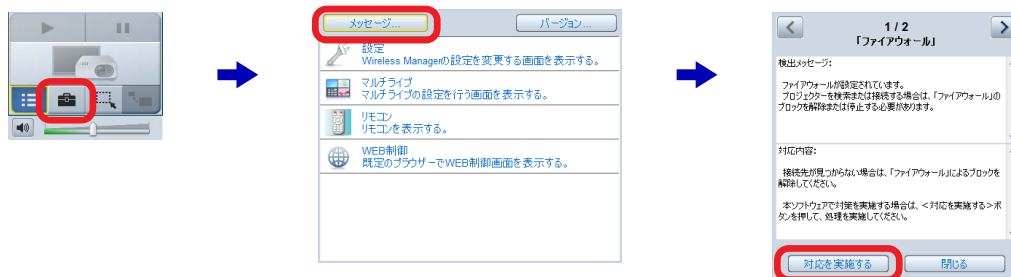
本ソフトウェアのバージョン情報を表示します。



メッセージ

機材が見つからないときや使用できないときなどに[メッセージ]をクリックすると、問題を解決するためのヒントが表示されます。

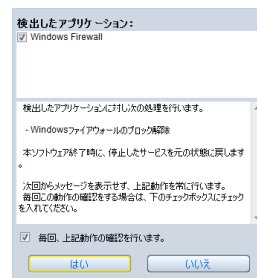
- 表示内容が複数ページになるときは、  をクリックしてページを移動させてください。



●「対応を実施する」をクリックする。

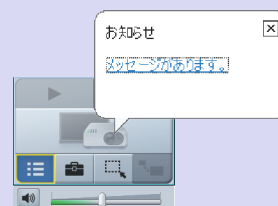
ファイアウォールや無線LANアダプターユーティリティーが動作していることを検出した場合には、<メッセージ>画面に[対応を実施する]ボタンが表示されます。

[対応を実施する]をクリックすると、<対応内容の実施>画面が表示されますので、内容を確認したうえで[はい]をクリックします。



お知らせ

- ランチャーに「メッセージがあります」のバルーンが表示されたときは、バルーンをクリックすると直接<メッセージ>画面を表示することができます。



メッセージ／対応内容	ページ
「ファイアウォール」 検出メッセージ： ファイアウォールが設定されています。 機材を検索または接続する場合は、「ファイアウォール」のブロックを解除または停止する必要があります。 対応内容： 接続先が見つからない場合は、「ファイアウォール」によるブロックを解除してください。 本ソフトウェアで対策を実施する場合は、<対応を実施する>ボタンを押して、処理を実施してください。 補足： [対応を実施する]をクリックして指示に従ってください。 Windows ファイアウォールの設定を確認する場合は、Windowsの[コントロール パネル]を表示して、[システムとセキュリティ] → [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可]に、本ソフトウェアが登録されていることを確認してください。	72

メッセージ(つづき)

メッセージ／対応内容	ページ
「無線LANアダプターユーティリティ」 検出メッセージ： 無線LANアダプターユーティリティを検出しました。 対応内容： 機材を検索または接続するためには、無線LANアダプターユーティリティを停止する必要があります。 本ソフトウェアで対策を実施する場合は、＜対応を実施する＞ボタンを押して、処理を実施してください。 補足： [対応を実施する]をクリックして指示に従ってください。 ご利用中の無線LANアダプターのユーティリティが、無線の設定を変更している場合があります。 ユーティリティを終了させてから再度、接続を行ってください。	72
検出メッセージ： ネットワークブリッジが設定されています。 対応内容： 接続先が見つからない場合は、「ネットワークブリッジ」によるブロックを解除してください。 補足： ネットワークブリッジを使用することがなく、不要な場合は、ネットワークブリッジを削除してください。	70
検出メッセージ： 管理者権限のないアカウントでログオンされています。 対応内容： ネットワーク接続を行った後、WirelessManagerを起動してください。 ネットワーク接続を行うためには、事前に管理者権限でコンピューターのネットワーク設定(IPアドレスなど)を行う必要があります。 補足： 管理者権限がないアカウントやGuestアカウントでログオンした場合は、簡単無線接続(無線LAN接続が[シンプル]、[S-DIRECT]、[S-MAP]、[1]～[4]に設定されている機材)を使用することはできません。 無線LANで接続する必要がある場合は、無線LAN接続が[USER]、[M-DIRECT]に設定されている機材を使用してください。	69
検出メッセージ： プロジェクターが見つからない場合は、以下の確認を行ってください。 対応内容： [機材の設定] ・機材の電源が入っているか？ ・ネットワークがONになっているか？ ・無線LANの接続方法が所望の設定になっているか？ [コンピューターの設定] ・無線スイッチがONになっているか？ ・無線が有効になっているか？ ・ファイアウォールアプリケーションが例外登録されているか？ 補足： ・機材の電源を入れてください。 ・機材のネットワークを利用できる状態にしてください。 ・ネットワークの設定を機材と本ソフトウェアで合わせてください。 ・コンピューターの無線スイッチをONにしてください。 ・無線／有線LANアダプターを有効にしてください。 ・コンピューターにインストールされている「ファイアウォール」によるブロックを解除してください。	—

用語解説

用語	説明
Access point アクセスポイント	無線LANでコンピューターとネットワークを接続する電波中継機のことです。 アクセスポイントに接続することで、アクセスポイントが接続されているネットワークにアクセスできるようになります。
Account ユーザーアカウント	コンピューターを使う人（ユーザー）を識別するための登録名のことです。「管理者」と「標準ユーザー」があります。標準ユーザーでは、一部使えない機能やアプリケーションソフトがあります。
管理者権限のアカウント	他のユーザーに影響する変更を行うことができるアカウントです。  （シールド）が表示されている操作を行うと、操作を行っても問題がないか確認の画面が表示されます。
AD HOC	アクセスポイントを介さずにコンピューターどうしが直接通信を行うモードのことです。
AES	Advanced Encryption Standardの略です。 通信中でも暗号キーを変更し続けることにより、暗号キーが解読されることを防ぐので安全性が高くなります。 AESは、暗号化処理をハードウェアで行うので、アクセスポイントもAESに対応している必要があります。 米国商務省標準技術局 (NIST) によって規格化された、米国政府の次世代標準暗号化方式です。
Default Gateway デフォルトゲートウェイ	使用しているネットワークの規格と異なった他のネットワークに接続する場合などに使われる機器のことです。双方のネットワーク間のプロトコルの違いなどを調整して、他のネットワークとの接続を可能にします。アクセス先のIPアドレスについて特定のゲートウェイを指定していない場合に、デフォルトゲートウェイに設定されているホストにデータが送信されます。
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocolの略です。 接続されている機器に自動的にIPアドレスを割り振る機能です。 DHCPサーバーの機能を持った機器がLAN内にあれば接続されている機器に自動的にIPアドレスを割り振ります。
Encryption 暗号化	他人にわからない形にデータを変換することです。 送信者と受信者の間でデータを変換するためのルール（アルゴリズム）と鍵（ネットワークキー）を決めておき、送信者が変換（暗号化）したデータを受信者が元に戻します（復号化）。 重要なやり取りを他人に解読されることなく行うことができます。
Firewall ファイアウォール	ネットワーク（インターネットなど）経由の不正なアクセスからコンピューターを守るためのセキュリティシステムのことで、 ネットワークとの間でやり取りされるデータを規制して、認められているデータ以外は通過できないようにすることで、不正なアクセスを防ぎます。
Hub ハブ	同じ種類のケーブルを集めて、情報を中継するための装置のことです。 USBハブやネットワークハブなどがあります。
Infrastructure Mode インフラストラクチャーモード	アクセスポイントを経由し、通信するモードのことです。
IP address IPアドレス	ネットワークでデータを配送する先にあたるアドレスのことです。 IP (Internet Protocol) は、データを配送するためのプロトコルで、同一ネットワーク内で同じIPアドレスを使用することはできません。
LAN	Local Area Networkの略です。 会社内など比較的狭い範囲のネットワークのことです。

用語解説(つづき)

用語	説明
Logoff ログオフ	ネットワークやコンピューターのシステムにアクセスできる状態(ログオン)を解消することです。 ログアウトとも呼ばれます。
Logon ログオン	ネットワークやコンピューターのシステムにアクセスできる状態にすることです。 ログインとも呼ばれます。
MAC address MACアドレス	各ネットワークアダプターに割り当てられた固有のID番号のことです。 全世界のネットワークアダプターには、1枚1枚固有の番号が割り当てられており、これを元にアダプター間のデータの送受信が行われます。 IEEEが管理・割り当てをしているメーカーごとに固有な番号と、メーカーが独自に各アダプターに割り当てる番号の組み合わせによって表されます。
MPEG	デジタル動画を効率的に圧縮するための技術のことです。 そのひとつであるMPEG2は、すぐれた画質で、DVD-Videoなどに利用されています。 圧縮率がMPEG2より低いMPEG1もあり、Video CDで利用されています。また、電話回線など通信速度の低い回線を通じた低画質、高圧縮率の映像の配信を目的としたMPEG4という規格もあります。
Open System/OPEN オープンシステム/ オープン	公開鍵暗号を用いた無線認証方式のひとつです。
Protocol プロトコル	コンピューターどうしでデータ通信をするために、必要な共通の約束事のことです。 異なるコンピューターどうしでデータのやり取りができるようにするためには、データ送受信のタイミングや送受信される情報のフォーマットなど、双方に同じ約束事が必要となります。例えばインターネットでは、TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) と呼ばれるプロトコルを使って、さまざまなソフトウェアがデータ通信を行っています。
SSID	Service Set IDの略です。 無線LANでは、通信したいアクセスポイントであるかどうかを区別するために、SSIDと呼ばれる識別コードを設定する必要があります。 一部メーカーの無線LANアダプターによっては、[ESSID] や [ネットワーク名] などと表示されている場合もあります。
Subnetmask サブネットマスク	ネットワークでは、大きなネットワークをサブネットと呼ばれる複数の小さなネットワークに分割して管理する場合があります。 その場合のIPアドレスを区切るための値のことをサブネットマスクといいます。
WEP	Wired Equivalent Privacyの略です。 通信するデータを暗号化する方式です。暗号キーを作成して通信する相手だけに知らせることで、第三者に通信データを解読されないようにします。
Wireless LAN 無線LAN	電波を利用して、無線で通信を行うネットワークのことです。 共通の無線周波数を使ってデータの送受信を行いますので、LANケーブルの配線が不要です。 情報伝達のセキュリティを守るため、SSIDやWEPを利用できます。

困ったとき

■ 機材とコンピューターが無線LAN接続できないとき

- **本ソフトウェアを起動していますか。**
機材に無線LANで画像を送信するには、コンピューター側で本ソフトウェアを起動する必要があります。
- **ネットワークの設定は正しいですか。**
無線LANの接続方法が[USER]、[M-DIRECT]の機材を選択する場合、機材のネットワーク設定とコンピューターのネットワーク設定が正しいか確認してください。
- **本ソフトウェア（ランチャー）の  をクリックして[メッセージ]をクリックしてください。**
対応内容が表示されますので指示に従ってください。
- **機材の電源を入れた直後、および入力切り換え直後は接続に失敗する場合があります。**
しばらく（1分以上）待ってから接続してください。

■ コンピューターの管理者権限がないとき

管理者権限がないユーザーやGuestアカウントでログオンした場合は、「[シンプル]、[S-DIRECT]、[S-MAP]、[1]、[2]、[3]、[4]の設定で使用する」（24 ページ）の方法で機材を選択することができません。
無線LAN接続する必要がある場合は、[USER]、[M-DIRECT]の無線LANの接続方法で機材を選択してください。

■ 「LANアダプターが見つかりません。」のエラーが表示されたとき

- **無線LANアダプターは有効になっていますか。**
無線LANアダプターが無効になっている場合は、有効にしてご使用ください。
無線LAN内蔵タイプのコンピューターの場合、コンピューターによってはハードウェアスイッチ、またはソフトウェア設定で無線LANの電源が「オフ」に設定されている場合があります。「オフ」になっている場合は、「オン」にしてから本ソフトウェアを起動してください。
（Bluetoothを兼用しているコンピューターの場合、Bluetoothが優先になっていることがありますので、無線LANを優先に切り換えてください。）
「オン」「オフ」の切り換え方法については、ご使用のコンピューターの取扱説明書を参照してください。
- **無線LANアダプターは正しく認識されていますか。**
ご使用の無線LANアダプターが正しく認識されていない場合があります。
[デバイスマネージャー]で正しく認識されているか確認してください。
[デバイスマネージャー]の[ネットワークアダプター]の欄に[?]マークが表示されている場合は、インストールが正常に終了していないことが考えられます。
ご使用の無線LANアダプターの取扱説明書に従って、再度ドライバーをインストールすることをお勧めします。

<[デバイスマネージャー]の表示方法>

Windows 8.1 の場合

キーボードの[Windowsロゴ]を押しながら[X]を押し、[コントロール パネル] → [システムとセキュリティ] → [システム] を選べると、[コンピューターの基本的な情報の表示]が表示されます。
[デバイスマネージャー] をクリックしてください。

Windows 10 の場合

タスクバーの検索ボックスで「コントロール パネル」と入力し、[コントロール パネル]を起動します。
[システムとセキュリティ] → [システム] を選べると、[コンピューターの基本的な情報の表示]が表示されます。
[デバイスマネージャー] をクリックしてください。

- **無線LANアダプターのドライバーのアップデートを行うことで「[シンプル]、[S-DIRECT]、[S-MAP]、[1]、[2]、[3]、[4]の設定で使用する」（24 ページ）が動作するようになる場合があります。**
ドライバーのアップデートに関しては、ご使用の無線LANアダプターのメーカーにお問い合わせください。

■「検出メッセージ：ネットワークブリッジが設定されています。」が表示されたとき

● ネットワークブリッジが設定されていませんか。

ネットワークブリッジが設定されていると、無線 LAN 接続ができません。ネットワークブリッジを使用することがなく不要な場合は、ネットワークブリッジを削除してください。

詳しくは、ネットワーク管理者に確認してください。

<ネットワークブリッジの有無の確認方法>

Windows 8.1 の場合

キーボードの [Windows ロゴ] を押しながら [X] を押し、[コントロール パネル] → [ネットワークとインターネット] を選択して [ネットワークと共有センター] をクリックしてください。

<ネットワークと共有センター> 画面の [アダプターの設定の変更] をクリックしてください。

<ネットワーク接続> 画面に [ネットワークブリッジ] が表示されていることを確認してください。

設定を変更するには、下記のどちらかの操作を行ってください。

<ネットワークブリッジの設定の変更方法>

1. キーボードの [Windows ロゴ] を押しながら [X] を押し、[コントロール パネル] → [ネットワークとインターネット] を選択して [ネットワークと共有センター] をクリックする。
2. <ネットワークと共有センター> 画面の [アダプターの設定の変更] をクリックする。
3. [ネットワークブリッジ] を右クリックし [プロパティ] をクリックする。
4. [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックスで [続行] をクリックする。
5. <ネットワークブリッジのプロパティ> 画面で [ワイヤレスネットワーク接続] のチェックを外す。
(チェックが入っていない場合は、6 に進んでください。)
6. <ネットワークブリッジのプロパティ> 画面で [インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)] の [プロパティ] をクリックする。
7. <インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4) のプロパティ> 画面の [代替の構成] タブをクリックする。
8. [ユーザー構成] をチェックして [IP アドレス]、[サブネットマスク] を以下のように設定する。
IP アドレス: 10. 10. 11. 101
サブネットマスク: 255. 255. 0. 0
(上記 IP アドレスを LAN 環境で使用中の場合は、10.0.0.0 から 10.255.255.255 の範囲の IP アドレスを設定してください。)
9. [OK] → [閉じる] をクリックする。
10. <ネットワーク接続の管理> 画面を終了する。
11. <ネットワークと共有センター> 画面を終了する。

<ネットワークブリッジの削除方法>

1. キーボードの [Windows ロゴ] を押しながら [X] を押し、[コントロール パネル] → [ネットワークとインターネット] を選択して [ネットワークと共有センター] をクリックする。
2. <ネットワークと共有センター> 画面で [アダプターの設定の変更] をクリックする。
3. [ネットワークブリッジ] を右クリックし [削除] をクリックする。
4. [接続の削除の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックする。
5. [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックスで [続行] をクリックする。

■「検出メッセージ：ネットワークブリッジが設定されています。」が表示されたとき(つづき)

Windows 10の場合

タスクバーの検索ボックスで「コントロール パネル」と入力し、[コントロール パネル] を起動します。[ネットワークとインターネット] を選択して [ネットワークと共有センター] をクリックしてください。

<ネットワークと共有センター>画面の [アダプターの設定の変更] をクリックしてください。

<ネットワーク接続>画面に [ネットワークブリッジ] が表示されていることを確認してください。

設定を変更するには、下記のどちらかの操作を行ってください。

<ネットワークブリッジの設定の変更方法>

1. タスクバーの検索ボックスで「コントロール パネル」と入力して [コントロール パネル] を起動し、[ネットワークとインターネット] を選択して [ネットワークと共有センター] をクリックする。
2. <ネットワークと共有センター>画面の [アダプターの設定の変更] をクリックする。
3. [ネットワークブリッジ] を右クリックし [プロパティ] をクリックする。
4. [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックスで [続行] をクリックする。
5. <ネットワークブリッジのプロパティ>画面で [ワイヤレスネットワーク接続] のチェックを外す。
(チェックが入っていない場合は、6に進んでください。)
6. <ネットワークブリッジのプロパティ>画面で [インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)] の [プロパティ] をクリックする。
7. <インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)のプロパティ>画面の [代替の構成] タブをクリックする。
8. [ユーザー構成] をチェックして [IPアドレス]、[サブネットマスク] を以下のように設定する。
IP アドレス: 10. 10. 11. 101
サブネットマスク: 255. 255. 0. 0
(上記IPアドレスをLAN環境で使用中の場合は、10.0.0.0から10.255.255.255の範囲のIPアドレスを設定してください。)
9. [OK] → [閉じる] をクリックする。
10. <ネットワーク接続の管理>画面を終了する。
11. <ネットワークと共有センター>画面を終了する。

<ネットワークブリッジの削除方法>

1. タスクバーの検索ボックスで「コントロール パネル」と入力して [コントロール パネル] を起動し、[ネットワークとインターネット] を選択して [ネットワークと共有センター] をクリックする。
2. <ネットワークと共有センター>画面で [アダプターの設定の変更] をクリックする。
3. [ネットワークブリッジ] を右クリックし [削除] をクリックする。
4. [接続の削除の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックする。
5. [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックスで [続行] をクリックする。

■本ソフトウェアの起動時に<対応内容の実施>が表示されたとき

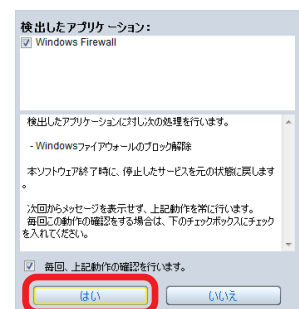
●「検出したアプリケーション」にファイアウォール名が表示されていますか。

ファイアウォールが動作していることを検出した場合、「検出したアプリケーション」に検出したファイアウォール名を表示します。

ブロックを解除する場合は、[はい] をクリックしてブロックを解除、または停止してください。

本ソフトウェアの終了時に、停止したアプリケーションは自動的に元の状態に戻ります。

「毎回、上記動作の確認を行います」にチェックを入れていない場合は、次の起動時から自動的に対応内容を実施します。



確認メッセージを再度表示したい場合は、ランチャーの  [オプション] → [設定] で、「起動時にファイアウォール確認メッセージを表示する」にチェックを入れてください。

困ったとき (つづき)

■ Windows ファイアウォールを検出したとき

＜対応内容の実施＞画面の[はい]をクリックしてください。

自動的に対応内容を実施します。

手動で設定する場合は、OSの種類に合わせて下記の操作を行ってください。

[Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可]に本ソフトウェアが登録されていますか。

＜登録方法＞

1. Windows 8.1 の場合、キーボードの[Windowsロゴ]を押しながら[X]を押し、[コントロールパネル]をクリックする。
Windows 10 の場合、タスクバーの検索ボックスで「コントロール パネル」と入力し、[コントロール パネル]を起動する。
2. <コントロール パネル>画面が表示されたら[システムとセキュリティ]をクリックする。
3. <システムとセキュリティ>画面の[Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可]をクリックする。
4. [設定の変更]をクリックし、登録許可モードに変更する。
5. [別のアプリの許可]をクリックし、＜アプリの追加＞画面が表示されたら、[参照]をクリックする。
6. 本ソフトウェアをインストールしたフォルダーの「WM」と「WMUser」を選択し、[開く]をクリックする。
フォルダーを指定していない場合のインストール先：
C:\Program Files (x86)\Panasonic\Wireless Manager ME 6.* *¹
7. <アプリの追加＞画面の[アプリ]リストに、本ソフトウェアが表示されていることを確認して、[追加]をクリックする。
8. [許可されたアプリおよび機能]リストに本ソフトウェアが追加されていることを確認する。
プライベートおよびパブリックにチェックが入っていることを確認する。
9. <許可されたアプリ>画面の[OK]をクリックする。
本ソフトウェアがWindows ファイアウォールの例外アプリケーションリストに登録されます。

お知らせ

- *¹ *アスタリスクは、ソフトウェアのバージョンの一部が表示されます。

■ その他のファイアウォールを検出したとき

ファイアウォール機能を備えたアプリケーションがインストールされていませんか。

ファイアウォール機能を備えたアプリケーションがインストールされていると、機材と通信できない場合があります。

(起動していなくても、インストールされているだけでファイアウォール機能が動作する場合があります。)

この場合、無線LAN接続を行うためには、ファイアウォールの設定変更を行う必要があります。

ファイアウォールの設定方法については、各アプリケーションの取扱説明書をご覧ください。

■ 「検出メッセージ：無線LANアダプターユーティリティを検出しました。」が表示されたとき

無線LANアダプターのユーティリティが動作している場合、ユーティリティ名を表示します。

機材と通信するためには、無線LANアダプターユーティリティを停止する必要があります。

[対応を実施する]ボタンが表示されている場合は、本ソフトウェアでユーティリティを停止させることができます。

対応を実施する場合

[対応を実施する]ボタンをクリックすると＜対応内容の実施＞画面が表示され、検出したユーティリティ名が表示されます。

ユーティリティを停止する場合、[はい]をクリックして無線LANアダプターユーティリティを停止してください。

本ソフトウェアの終了時に、停止した無線LANアダプターユーティリティは自動的に元の状態に戻ります。

「毎回、上記動作の確認を行います」にチェックを入れていない場合は、次のネットワーク切替時から自動的に対応内容を実施します。

確認メッセージを再度表示したい場合は、ランチャーの  [オプション] → [設定]で、「接続時に無線LANアダプターユーティリティ確認メッセージを表示する」にチェックを入れてください。



困ったとき(つづき)

■ 無線LAN、または有線LANの接続が切れてしまう

映像の表示が中断された場合や通信が切断された場合は、機材のリストから再度機材を選択してください。
それでも機材と通信できない場合は、機材の電源を切り、プロジェクターの場合、クーリングが終了した（本体の電源モニターがオレンジ色から赤色に変わった）後に本体の主電源スイッチがある場合は、スイッチを切ります。

スイッチがない場合は、電源ケーブルを抜きます。

再度電源を入れてから、もう一度本ソフトウェアから機材を選択してください。

([P. 23 ページ](#))

■ マルチライブモード中に通信が切断される

Intel Centrino モバイルテクノロジー（無線LAN）搭載のコンピュータで機材と通信する場合は、アダプターのバージョンによっては、マルチライブモードが解除される場合があります。

■ インターネットをしながら無線LAN接続を行いたい

- インターネット接続が可能な無線LAN 環境がある場合は、この無線LAN 環境に機材を組み込むことによりインターネット接続、機材との無線LAN 通信の併用が可能となります。([P. 26 ページ](#))
- 有線LAN でのインターネット接続環境がある場合は、有線LAN でのインターネット接続、無線LAN 接続の併用が可能です。

■ IEEE802.11g で接続できない／IEEE802.11n で接続できない

- IEEE802.11b、IEEE802.11g 対応の無線LAN アダプターが混在するような環境ではIEEE802.11b で接続される場合があります。
- 使用環境（場所、電波状況、距離など）によっては、IEEE802.11b で接続される場合があります。
- 無線LAN のアダプターによっては、“AD HOC” 接続ではIEEE802.11b での接続しかサポートしていないものがあります。
- IEEE802.11n で使用できるのは、[シンプル]、[S-DIRECT]、[M-DIRECT]、ワイヤレスモジュール（品番：ET-WM200）およびインフラストラクチャー接続（802.11n 対応アクセスポイント使用時）を使用した場合に限りです。
[シンプル]、[S-DIRECT]、[M-DIRECT]、ワイヤレスモジュールは一部の機材のみ使用可能です。
対応機能については、機材の付属品に本ソフトウェアのCD-ROM がある場合は、CD-ROM 内のアプリケーションランチャーにある「対応機種一覧表」をご覧ください。
またWEB サイト（(https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application) または (https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software)）の「対応機種一覧表」でもご確認いただけます。

■ 画像の表示やアニメーションの再生が遅い、スムーズでない

- コンピューターのCPU 速度が遅くありませんか。
([P. 10 ページ](#))
画像の表示やアニメーションの再生は、コンピューターのCPU 性能に大きく依存します。
- 周囲で無線通信が行われている場合は、影響を受ける場合があります。
- ランチャーの  [オプション] → [設定] で、「高画質で投写する（パフォーマンスに影響します）」を選択している場合には、画面表示が遅くなることがあります。
([P. 50 ページ](#))
- 他のアプリケーションを同時に起動している場合、遅くなることがあります。
- 本ソフトウェアを起動する前に、Microsoft PowerPoint または Windows Media Player を起動していませんか。
上記アプリケーションは、本ソフトウェアを起動したあとに起動してください。
- 管理者権限がないアカウントで起動した場合は、速度が著しく低下することがあります。
- 動画を再生する場合、表示が遅くなることがあります。

困ったとき(つづき)

■ DVD や MPEG2、Blu-ray Disc のコンテンツがコンピューター上で再生できない

- 本ソフトウェアを起動しているときは、以下の制限があります。
 - DVD、MPEG2、Blu-ray Disc の動画の再生はできません。
 - 3D 系のアプリケーションを使用した場合、アプリケーションの性能が低下したり、描画されなかったり等、正常に動作しない場合があります。
- 本ソフトウェアを終了し、コンピューターケーブルや HDMI ケーブルを接続してご利用ください。
(動画を再生するプレイヤーによっては、動画が再生できない場合もあります。)

■ コンピューター操作と実際の表示映像にタイムラグがある

- 本ソフトウェアはコンピューターの画面を取り込んで圧縮してから機材に送信します。また、機材側では受信したデータを解凍してから映像を表示します。
この処理時間と無線 LAN の環境によって遅延時間が発生します。ご使用のコンピューターの性能によっても遅延時間に差がでます。

■ ライブスタイルを変更できない

- 司会者モードに対応している機種では、ライブスタイルを切り換えることができません。
- ランチャーの  [オプション] → [マルチライブ] → 「ライブスタイルの選択」でライブスタイルを選び、[適用]をクリックするとスタイルが切り換わります。
([図 55 ページ](#))
- リモコンの [マルチライブ] をクリックするとスタイルが切り換わります。
([図 62 ページ](#))
- 機材の「ネットワーク」メニューから「マルチライブ」を選択し、<決定/ENTER> ボタンを押すことで切り換えることができます。
- 全画面で表示をしているときは、スタイルを切り換えることができません。一旦、映像の表示を停止してからライブスタイルを変更してください。

■ 映像の表示中に機材からコンピューターの音声がない

- 本ソフトウェアを起動する前に、メディアプレイヤー (Windows Media Player、Real Player、Quick Time など) を起動していませんか。
上記アプリケーションは、本ソフトウェアで映像の表示を開始した後に起動してください。
- 複数台の機材と同時に通信している場合は、利用できません。
- ランチャーの  [オプション] → [設定] → 「投写時に映像と一緒に音声も出力する」にチェックが入っているかを確認してください。
([図 50 ページ](#))
- 音声ドライバーの「既定のデバイス」が「Panasonic Projector Audio Device」になっているか確認してください。
- 上記の操作を行っても症状が改善されない場合は、本ソフトウェアをいったん終了し、起動し直してください。

■ 本ソフトウェアの色表示が正しくなく、文字が読みづらい

- ランチャーの  [オプション] → [設定] → 「高画質で投写する (パフォーマンスに影響します)」にチェックが入っているかを確認してください。([図 50 ページ](#))
- 画面の色を 16 ビット以上にしてください。

■ 映像を表示中、スクリーンセーバーが正常に表示されない

- スクリーンセーバーの種類によって、正常に表示できない場合があります。
- ランチャーの  [オプション] → [設定] → 「投写時にスクリーンセーバーを無効にする」にチェックを入れて、スクリーンセーバーを表示しないように設定してください。([図 50 ページ](#))

■ 「Windows Aero」が無効になる

本ソフトウェア起動中は、「Windows Aero」を無効にします。

困ったとき(つづき)

■ 検索した機材に映像を表示する時に、機材の電源が入らない場合

- 機材がPT-VW345N/PT-VX415Nやその他の機材で、[スタンバイモード]の設定が[ECO]または[ネットワーク]になっていると、映像を表示時に機材の電源が入らない場合があります。
その場合は、[スタンバイモード]の設定を[ノーマル]に切り換えてください。

■ 無線LANの無線LANの接続方法、プロジェクター名またはディスプレイ名、ネットワークIDが表示されない

■ 機材が検索できない

- 機材がPT-VZ575N/PT-VW535N/PT-VX605N、PT-VW345N/PT-VX415N、または、PT-VW355N/PT-VX425Nの場合、機材の設定によっては、無線LANの無線LANの接続方法、プロジェクター名またはディスプレイ名、ネットワークIDが表示されない、もしくは見つからない場合があります。その場合は、以下の操作をしてください。
[メニュー] → [ネットワーク] → [コネクションロック]が[オフ]の場合：リモコンの<Panasonic APP> ボタンまたは<NETWORK/USB> ボタン（または機材本体操作部の入力切替ボタン）を押して、入力を [Panasonic APPLICATION] に切り換えてください。
[メニュー] → [ネットワーク] → [コネクションロック]が[メモリービューワー] / [Miracast(TM)] / [ミラーリング]の場合：[コネクションロック]を [Panasonic APPLICATION] に切り換えてください。

■ Windows 8.1/Windows 10の環境で機材が検索できない

- 使用するコンピューターによって、機材が検索できない場合があります。
機材が検索できないときは、機材を以下の設定にしてください。

機材がPT-VZ575N/PT-VW535N/PT-VX605N、PT-VZ585N/PT-VW545N/PT-VX615N、PT-VW345N/PT-VX415N、PT-VW435N/PT-VX505N、またはPT-VW355N/PT-VX425Nの場合

[シンプル]、[S-DIRECT]、または[M-DIRECT]の設定で使用してください。

([図 24 ページ](#)、[29 ページ](#))

機材が他の機材(無線LAN対応)の場合

アクセスポイントを利用した[USER] (infrastructure mode) で使用してください。

([図 26 ページ](#))

■ ワイヤレスマネージャーを利用後、ネットワークの設定が元に戻らない

- パソコンがフリーズするなどが原因で、ソフトウェアが異常終了した場合、ネットワークを元に戻す処理が正常に行われません。お手数ですが、もう一度ワイヤレスマネージャーを起動/終了してください。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interfaceという語、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。
- Intel、Intel Centrino、Intel Core2 Duo およびIntel Core i5 は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。
- MiracastTM は、Wi-Fi Alliance の商標です。
- その他、この説明書に記載されている各種名称・会社名・商品名などは各社の商標または登録商標です。なお、本文中では®やTMマークは明記していません。

ご注意

- 本ソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- 本ソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本ソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

お問い合わせ内容がプロジェクターに関するものである場合は、下記パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンターまでご連絡ください。

パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター

電話

フリー
ダイヤル



0120-872-601

※携帯電話からもご利用いただけます。

営業時間：月～金（祝日と弊社休業日を除く）
9:00～17:30（12:00～13:00は受付のみ）

URL https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_support

- * 文書や電話でお答えすることがあります。また、返事を差しあげるのにお時間をいただくことがあります。
- * お電話の際には、番号をお確かめのうえ、お間違えのないようにおかけください。

お問い合わせ内容がフラットパネルディスプレイに関するものである場合は、下記パナソニック 業務用ディスプレイサポートセンターまでご連絡ください。

パナソニック 業務用ディスプレイサポートセンター

電話

フリー
ダイヤル



0120-872-002

※携帯電話からもご利用いただけます。

営業時間：月～金（祝日と弊社休業日を除く）
9:00～17:30（12:00～13:00は受付のみ）

URL https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_support

- * 文書や電話でお答えすることがあります。また、返事を差しあげるのにお時間をいただくことがあります。
- * お電話の際には、番号をお確かめのうえ、お間違えのないようにおかけください。

【当サポートセンターにおけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社

〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号